

第2回 大山町議会定例会会議録（第4日）

令和5年3月14日（火曜日）

議事日程

令和5年3月14日 午前9時30分開議

1. 開議宣告

日程第1 一般質問

通告 順	議席 番号	氏名	質問事項
8	10	大森 正治	1. 子育て支援は未来への希望 2. 免許返納した高齢者への支援拡充は
9	1	小谷 英介	1. DMO（観光地域づくり法人）準備室の設立にあたり、町長が理想とする「観光地経営」の在り方について
10	12	近藤 大介	1. 大山町の人材育成について 2. 住民参画と協働のまちづくりについて
11	8	大原 広巳	1. 山陰道淀江インター跡地活用事業について 2. 酪農家支援はこれで十分か
12	15	野口 俊明	1. 弱者対策と町民にやさしい町づくりを

本日の会議に付した事件

通告 順	議席 番号	氏名	質問事項
9	1	小谷 英介	1. DMO（観光地域づくり法人）準備室の設立にあたり、町長が理想とする「観光地経営」の在り方について
10	12	近藤 大介	1. 大山町の人材育成について 2. 住民参画と協働のまちづくりについて
11	8	大原 広巳	1. 山陰道淀江インター跡地活用事業について 2. 酪農家支援はこれで十分か
12	15	野口 俊明	1. 弱者対策と町民にやさしい町づくりを

出席議員（14名）

1番	小谷英介	2番	西本憲人
3番	豊哲也	4番	島田一恵
6番	池田幸恵	7番	門脇輝明
8番	大原広巳	9番	大杖正彦
11番	杉谷洋一	12番	近藤大介
13番	吉原美智恵	14番	岡田聰
15番	野口俊明	16番	米本隆記

欠席議員（1名）

10番 大森正治

欠員（1名）

事務局出席職員職氏名

局長 野間光書記 三谷輝義

説明のため出席した者の職氏名

町長	竹口大紀	教育長	鷺見寛幸
副町長	吉尾啓介	教育次長	前田繁之
総務課長	金田茂之	財務課長	井上龍
企画課長	源光靖	観光課長	西尾秀道
建設課長	小倉祥司	農林水産課長	桑本英治

午前9時30分開議

○議長（米本 隆記君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は14人です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

なお、本日の会議には、10番、大森正治議員から欠席の届出が出ておりますので、御報告いたします。

日程第1 一般質問

○議長（米本 隆記君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

なお、通告順8番、議席番号10番、大森正治議員より一般質問の通告がありました。が、本日欠席届が提出されましたので、会議規則第61条第4項の規定に基づき、大森

議員の一般質問は行いません。

続いて、通告順9番からの発言を許します。

議席番号1番、小谷英介議員。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

このまま始めさせていただきます。

○議長（米本 隆記君） そうですね。

○議員（1番 小谷 英介君） おはようございます。では、トップバッター行かせていただきます。今日は、DMOというテーマで町長に考えをお伺いしたいと思っております。

DMOというのは、観光地域づくり法人というものの略称になってまして、日本版DMOというふうに言われてますけども、ちょっとこのテーマ、観光ですので、私の仕事、議員とは違う仕事のほうにも関わってくる仕事で、ちょっと私も思い入れが結構強くて、昨日夜中の2時半ぐらいに目が覚めまして、今日何聞こうかなみたいなことを考え始めたら、もう目がさえてきちゃいまして、そのまま寝ずに来てますんで、ちょっとテンションが少しいつもより高めかもしれないです。よろしくお願いします。

それで、DMOということで、今回執行部のほうから、次年度、新年度の予算が出されてまして、その中でDMO準備室というものをつくりまして。そして、そのための準備の予算を計上されてますということで、新年度、いよいよそういった動きが始まっていくのかなと。

ちょっとDMOって、そもそも何なのかということについて分からない方も多いかと思しますので、一応ちょっとその概念だけ、最初に触れてから質問のほうに入っていきたいと思っておりますけども、DMOというのは、今、日本で言われているDMOというのは、2014年頃に初めて政府のほうで言及されてきてますと。それが実は、観光庁というよりは、まち・ひと・しごと創生本部ですかね、つまり地方創生の文脈で、初めて日本政府の中でも今後地方でそういったものが必要だろうということが言われ始めてきたようです。その文脈としては、人口減少が地方でどんどん進んでますと。そうすると、人口が減少すると、まず消費が減りますと。消費が減ってくると地域の産業も停滞をやって、そこをしっかりと観光で外貨を稼いで、観光客に消費を支えてもらおうと。そういった意味合いでも、この観光地といいますか、地域を外部に対してしっかりと売っていく、地域を観光地として経営していく主体をつくらないといけないと。

それがDMOとして、それまで海外で事例としては成功事例があったものを、日本でしっかりやってみようということで、2014年にそういったことで議論が始まって、今現時点ですと、ちょっと数を調べてきてまいりまして、令和4年10月28日時点で登録DMOと呼ばれるもの、つまり登録されているDMOが255件ありますと。255件のうち3種類、DMOというのはありますと。広域連携DMO、地域連携DMO、地域DMOとありまして、広域連携DMOというのは県をまたいで広域でやってい

きましょう、この辺りでいくと、山陰インバウンド機構が広域連携DMOに当たるかと思えますけども、そういったものが全国に10件。それから地域連携DMO、幾つかの市町村にまたいでやっていっているものが103件。地域DMOというのは、1つの町の中でやってるものが142件という形で、255件できてますということで、かなりの数が今できました。

ただ、この255件できて、やっぱりいろいろ課題が見えてきてるわけですよ、そういった課題なんか、平成31年2月28日、すみません、2月28日は第6回だけですけども、何年か前に日本の国の中でも、世界水準のDMOのあり方に関する検討会というのが開かれてまして、実際に最初つくったときは補助金を国のほうで交付金を出しますけども、結局その交付金目当てにDMOを各地域でつくってきても多くて、実際出来上がってみたら、国の予算依存でなかなか今後存続が危ぶまれると、人とお金に悩むDMOが増えてきてるということで、その辺りの課題感というのが何年か前に見えてきてる状況の中です。

というような背景がある中で、今回大山町でDMOをつくっていきましょと。しかも地域DMO、大山町単体のものをつくっていきましょということ、ある意味そういった議論を踏まえて、それでもやっていこうという、結構一つの大きな決断なのかなというふうに私は受け止めてまして、恐らく竹口町長もこのDMOって前から存在は当然認識されている中で、これまで進めてこられなかった何らかの判断というか理由があって、ただ、その中で今回やっぱりやろうと。恐らく何か心境だったり、いろんな状況の変化があったんじゃないかなと思うので、今日ちょっとその辺りもぜひお聞きしたいなというふうに思うんですけども、今回DMOをやるということになったと。

今回、私が質問させていただきたいなと思うのは、DMOをやること自体に反対とかそういうことでは一切なくて、ただ、やるからには、そういった国のほうでいろいろ議論されてきた経緯、それから全国で255あるうちの多くが悩んでいるものが既にある、それをつくってみたいはいけど、同じ悩みに直面しましたということではなくて、もうあらかじめそういった議論が見えてるわけなので、そこを踏まえたものをつくっていかないといけないと思うんですね。それに今後、新年度取り組む現場の人たちからしても、何のためにやるのかとかそういったいろんな課題、ハードルが見えてる中で、どうやってやればいいのかという、恐らくもやもやしたところは少なからずあると思いますんで、そこは竹口町長がリーダーシップ持ってやっていただかないといけないところだと思えます。その辺りを、ちょっと今日質問の中でクリアにできたらいいのかなと思ってまして、そういった、かなり前置きが長くなりましたけど、竹口町長の考えを一通り公にさせていただきたいなというのが私のこの一般質問の背景です。ということで、本問のほうへ入りたいと思います。

DMO（観光地域づくり法人）準備室の設立に当たり、町長が理想とする観光地経営の在り方についてお伺いしますと。公の利益のために民の論理を生かす仕組みをいかに

つくるか。

論点1、本町の観光行政の現状分析について。本町の観光行政は、これまで観光課と大山観光局が主として担ってきました。まずは、近年の本町の観光行政を振り返り、DMO設立の背景としての文脈で、どのような課題意識、反省があるのかをお伺いします。

2つ目、本町におけるDMO設立の目的について。改めて町長は、何のためにDMOを設立したいのかを問います。本町の現状を踏まえた血の通った狙いをお聞きします。

3番目、必要な機能・役割について。上記の目的を達成するため、DMOに求められる必要最低限度の機能・役割とは何か。

4つ目、必要な人材について。DMOが上記の役割を担うため、どのような人材確保が必要か。また、どのように人材を確保・育成しようとしてイメージしているか。

5番目、財源について。DMOの財源構成をどのようにイメージしているか。また、将来的に自立を目指す場合、具体的にはどの財源で自立していることをイメージしているか。

6番目、DMOと自治体の関係性と権限委譲について。観光庁の観光地域づくり法人の登録制度に関するガイドラインにおいて、DMOと自治体との連携については、DMOへ権限と責任を付与し、役割分担を明確にする必要があると明記されている。この点、本町においては、どこまでDMOに権限と責任を付与するイメージをしているか。以上です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） おはようございます。一般質問2日目、よろしくお願ひいたします。

それでは、小谷議員から、DMO準備室の設立に当たって一般質問をいただいております。6点質問をいただいておりますので、順番にお答えをしたいと思いますというふうに思います。

まず、1点目の本町の観光行政の現状分析についてというお尋ねですけれども、これまでの大山の観光振興に関しましては、地域資源や、それからつくったものをいかに提供していくかということが中心でありました。旅行者等の消費志向や市場の志向に基づいて、ニーズに合った満足度を高められる商品を提供していく視点が今後ますます必要になってくるというふうに考えております。それに対応できるように、来訪者の属性、消費額などのデータ把握と分析、多様な関係者の参画で、それらに対応する体制づくりが必要と認識をしております。

2点目の本町におけるDMO設立の目的についてですが、観光は御承知のとおり裾野が広く、波及効果が大きいと言われております。地域資源をいかに観光に活用するかという視点から、さらに観光を活用していかに地域を豊かにするか、観光を手段として、いかに地域住民の生活の向上に資するかという視点で観光を活用した地域づくりを行う

ことが目的であります。

3点目の必要な機能・役割についてですが、大山町全体で観光地域づくりのための合意形成などマネジメント機能、消費者や市場に関する調査と分析などのマーケティング機能などが必要だと考えております。これらの機能を備えまして、観光地域づくりの中心的役割を担う組織がDMOに必要な機能・役割であるというふうに考えております。

4点目の必要な人材についてのお尋ねですが、信頼関係を構築する対人対応力のある人材、マーケティング等に精通した人材が必要だと考えております。人材確保につきましては、関係機関と連携して検討していきたいと考えております。また、専門性の高い能力が求められることから、民間等のノウハウを活用しながら長期的な視点で育成も必要であると考えております。

5点目の財源についてですが、DMOの活動は、答弁した内容のように公益事業が主な内容となります。特別な財源がない場合、一般的には補助金、負担金などの公的資金が主で、その他に若干の自主財源となることが考えられますが、財源構成につきましては、規模も含めて今後検討を深めていきたいと考えております。

6点目のDMOと自治体の関係性と権限委譲についてのお尋ねですが、DMOが機能を発揮するには、事業計画の立案、予算編成、執行に至るまでの決裁権を付与して、費用対効果を意識したスピード感のある事業執行が肝要だと考えております。一方で、来訪者数や消費額等の具体的かつ詳細な成果指標をもって評価して、責任を明確化することも必要ではないかと思えます。大山町といたしましては、DMOに権限と責任をどこまで付与するかをしっかりと協議検討して、DMOと密に連携しながら、DMOが中核となってその機能をしっかりと発揮することをサポートする関係であると考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） ありがとうございます。答弁内容的には、かなり、まずジャブといいますか、というか、ごめんなさい。内容的にはそのとおりだなと思うんですけども、今日ちょっとお聞きしたいのは、こういった教科書的な内容というよりは、もう少し町長として何を考えられているのかというところを聞かないと、あんまり一般質問してる意味もないのかなと思いますんで、ちょっと生々しいところもお聞きしたいなというふうに思うんですけども、ちょっと質問の仕方を少し変えてみようと思います。

まず、この現状分析のところなんですけども、もう少し解像度を高めたいなというふうに思うんですけども、今回DMOについて、いろいろ見れば見るほどといいますか、DMOについて勉強すれば勉強するほど、これって少なからず大山町、過去取り組んできた、取り組んでこようとしてきたことだなというふうにも思うんです。大山町って合併後ぐらいのタイミングで、大山恵みの里構想というのを前の前の町長のときにつくら

れて、それ、ちょっと今日印刷してきてるんですけども、大山恵みの里構想というものの概要はちょっと割愛はしますけども、基本的には大山の恵み、大山の自然、歴史、食、そういったものを活用をして、観光とそれから農林水産ですかね、ちょっとその農業、加工、そういったものをして大山のブランドをつくっていきましょうということで、すみません、これ書いてますね。農林水産・特産品・食、この辺りを大山恵みの里公社をつくって進めていきましょうと。そして、観光・交流・集客、この辺りを新大山町観光協会の設立をもってして進めていきましょうと。つまり、この大山恵みの里構想というのは恵みの里公社と、それから新観光協会、それが今の大山観光局ですよ。この2つの両輪で、大山の恵みをどんどん活用して大山を売っていきましょうと。

そのときの構想なんかを見ると、その中でいろいろなことが書いてあるわけですよ。 「「大山」だけで人が来る時代は終わった」と、「「大山に来て〇〇をする」時代へすでに変わっている」と。「人ありきの観光地域をめざす」、「住民主導による観光地づくり」にこそ、大山の未来がある」といったようなことで、このとき既に観光地経営の意識を持ってこれがつくられているんだらうなというふうに思うわけです。

つまり、ある意味でやろうとしていること、細かい部分は多分違うと思うんですけど、例えば昔よりも今のほうがデジタル技術が発達してますので、そういったデジタルマーケティングをもうちょっと強化しましょうとか、ちょっと細かい部分はもちろん変わってくると思うんですけど、根本的にやろうとしたことは2006年、16年とかそれぐらい前から大山町は取り組もうとしてきたわけですよ。ただ、じゃあ今、この現状をどう評価するのか、まずここもあると思うんですけども、現状がいいのか悪いのかというところはそれぞれ評価があると思うんですけども、少なからず、あらゆる関係者に話を聞いてみても、今がこの大山恵みの里構想がすごくうまくいってるよねという声は、私、聞いたことないですし、少なくとも全国的な事例になってるわけでもないという点で、いろいろと課題というか、うまくいってない部分は少なからずあるのだらうなと思います。

ここの、まず、この現状認識をもう少し町長にお伺いしたいなと思ひまして、現状認識というのは、うまくいってるかかってないかということももう今さら聞きたくなくて、そうではなくて、うまくいってない部分があるとすれば、なぜうまくいってないのかということをお聞きしたくて、結局同じことを繰り返してもしようがないわけですよ。今回DMOをつくると、でも、我々大山恵みの里構想は1回チャレンジしてると。でも、何らかの理由で停滞している部分がある、それは今回、繰り返しちゃ駄目だと思うんですよ。じゃあ構造的に、あるいは何かほかの要因で、何がうまくいってない原因となっているのか、そして今後何を変えるのか、この辺りをちょっと、もう少し現状認識としてお聞きしたいと思ひます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。最初はジャブみたいな答弁だということで、これ、いろいろ答弁をつくるときに考えるんです。この議員さんはうまく深掘りしてくださるかなとか、この議員さんはもう直接結論をいきなり書いといたほうがいいかなとか、いろいろ答弁書、最後調整するとき、もっとここまで書いといたほうがいいだろうというような調整したりするんですが、小谷議員の場合は、町としてもうまく方針を聞いてくださって、町民に広く分かるように一般質問していただけるんで、大体ジャブから入ってますね。それは指摘のとおりだと思います。なので、ここからうまく質問と答弁していけば、より町民の皆さんにも分かりやすいのかなというふうに思っているところです。

その上で、大山恵みの里構想の話がありました。大山恵みの里構想、これは合併後の大山町の基盤をつくる上でも、かなりその当時、うまく練られた構想だったというふうに思っています。1度つくった構想が永遠にうまく機能するということはないとは思いますが、ただ、一方で、合併後の大山町の産業基盤とか地域基盤をつくる上では、うまく大山町のエッセンスを取り入れた構想だったというふうに思っています。その上で、観光や農林水産業を発展させてきた上において、これから大山町が特にDMOの設置等で目指す姿というのは、広くとにかく全体をやっていくというよりは、何かに特化したとか、いわゆるブランディングみたいなことをやっていかなければいけない。経営のスタイルでいけば、ランチェスター戦略みたいなところになるんだと思うんですが、そういう地域づくりをしているところってというのは成功している例が多くって、大山町もいろんな資源があるから、いろんな資源の磨き上げをやっていきたいと思いますということをやってきていたと。これからDMOをつくって進めていく上では、何かブランド化みたいなものをしっかりやっていかなければいけないんじゃないかなと。そこが、今までの反省点ではないですけども、今まで伸ばしてこれなかった部分、これから伸ばしていかなければいけない部分だというふうに認識をしております。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） ありがとうございます。ブランディングのところ、つまり大山ブランド、この大山恵みの里構想でも中核になってるものは、大山ブランドの育成なんですよ。だから、大山ブランドの育成をしていく上での両輪として観光業、そして農林水産業を2軸として進めていきたいと思いますという中で、大山ブランドというのが、今現状まだそこまで広く思うようにはいってない部分があると私は思うんですけども、そういった意味で、町長が今言われた、まずブランディング、ブランドづくりが今後大事だと言われているところは100%、私も同じ意見です。大山恵みの里構想の構想は、僕、すばらしいなと思ったんですけども、ブランドに責任を持つ人がやっぱりいないと、いろんな施策というのが一貫通貫していかないんだろうなと思ひまして、そこは全く同じ意見です。

なので、機能・役割ですとか、人材といったところも関係しますが、今後本当にDMOを推進していくとしたら、その大山のブランドに責任を持つ人、そして、そのブランドをつくるためにどういった戦略が必要なのか、施策が必要なのかというところをぜひつくっていく必要があるのかなと思います。

もう一つ、機能・役割的なところとも関係するんですけども、もう少し構造的な課題のところにもちょっとお聞きしたいなと思ってんですけども、権限委譲の話、権限の分担の話、質問で6点目でお伺いしてるんですけども、関係性、権限委譲について、ちょっと恵みの里構想の話から少し離れて、大山町役場観光課とそれから大山観光局の関係性とか在り方の話にちょっと今、焦点当ててみたいんですけど、率直に今、この2者の関係性、役割分担について、どう思われてますかっていうことをちょっとお聞きしたいなと思ってます。

ちょっと先に、これに関して私が仮説としてこう思ってることなんですけど、今、大山町の観光行政、やることを決めてるのは、ほぼほぼ観光課だなというふうに思ってます。観光課がこういった施策をやりましょうと。それを実際に実施するのは、多くが観光局がやっています。つまり考えてるところと実際に実施してるところが、今、分かれていますというところが私としては1つ、なかなかいろんな施策が現場感の薄い施策が多く実施されている原因なのかなというふうに思ってます。今後DMOということをやるのであれば、この予算を考える、予算を企画する人とそれを実施する責任を持つ人が同じ場所にいないといけないじゃないかなというふうに考えていますが、町長、この辺り、どう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。主に観光局の話だったかなと思うので、そちらの話中心にしたいと思います。おっしゃるとおりで、大山町の観光課が様々な政策をやっているというところもあると思いますが、大山観光局も大山観光局の職員の中でいろいろ発案をしてもらって、提案をもらったものを政策としてやっているとか事業として行っているという例もあるので、感覚的には半々ぐらいかなというふうには思っています。完全に100%、大山町の観光課だけがこういうことをやりましょうって進めている状況ではないかなというふうには考えております。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） そうですね。ちょっとどのようにお聞きしようか悩むんですけども、私の提案をお伝えしますと、今回DMOをつくるのであれば、大山町の観光課というものの自体を、ある種もうなくしてしまうぐらいの思い切ったことをしていただきたいなというふうに思っています。町長も答弁の中でおっしゃっていただいているように、DMOが機能を発揮するには事業計画の立案、予算編成、執行に至るまでの決

裁権を付与してということですよ。つまりこれってどういうことかという、私の解釈としては、DMOをつくりますと、DMOが大山町の観光予算をもうつくってしまう。その自分たちでつくった予算を自分たちで執行して、効果が出たか出なかったかも責任を持ってもらう。DMOのトップとなる人間がもう議会にも来て、その成果、なぜ成果が出なかったかも含めて、いや、なぜ成果が出たかも含めて、そういった報告をDMOがするぐらいのものをつくらないと、結局同じことの繰り返しになってしまうんじゃないかなと、過去の、思っています。なので、今の観光課、そして観光局の関係性を今後見直して、もうDMOに機能を集約してしまうということが必要なのではないかなと私は思うんですけども、町長の今の考えを教えてくださいませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。今の考えということですが、あんまり大体こうですなんていうと、そういう方向に向かっていかざるを得なくなる状態になるので安易にはなかなか言えないんですけども、確かに小谷議員言われるみたいに、今の観光課と観光局の関係を考えたときに、もっと民間主導で財源も何か目的税みたいなものを設けながらやるとか、やり方としては、行政がずっと抱えなくてももっと民間の力で発展させていく形、公益的な部分はみんなでお金を出し合うとか、目的税みたいなものから頂いて捻出するかで、それで公益的な事業もやっていくというような仕組みはつくれるんじゃないのかなというふうには思ってますし、世界的にはそういうようなやり方してるところもありますし、それを参考にして日本国内でもやられているところはあるわけですから、大山町の今の観光課と観光局が一体化して、行政の一部組織ではないような形にするっていうのは、実現可能性はあるとは思っています。ただ、最終的に行政で行う部分の観光関連の事業っていうのは、残る部分があると思いますので、完全になくなるかといえばそうでもないかなとっていて、それが観光課として残るのか残らないのかといったところはあると思いますが、100%どこまでもできるかどうかというところは、少し未知数かなというふうに思っております。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） そうですね。恐らくイメージ、そんなに離れてないのかなと思います。今、観光課の来年度予算を見ますと、観光費、一般というところで、7,600万円が新年度計上されています。7,600万円の多くは、観光課の正職員や会計年度任用職員の人件費の部分です。7,600万のうち給料、職員手当、共済費含めると、大体6,000万円ぐらい、6,000万円ぐらいが今の観光課の職員なんですよね。人数からすると、正職員が8人、会計年度任用職員が1人。これ、イメージからすると、これはもう私の勝手な直感的なイメージですけども、今、8人いる正職員が、例えば2人とか3人だけ残って、あとの5人はほかの課に行くのか、あるいはDMOに出向するよ

うな、私はイメージしてるんですけども、近いですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。そこら辺は議論進めていかないと分からない部分ではありますけれども、出向というのも一つの手かなと思いますし、ただ、本体に残るといいますか、行政に残る部分としては、ぱっと思いつくのは近隣の市町村の観光関連部署との連携だとか、あとは山麓協のような観光の行政の部門を集めたような協議会だったりとか、そういうところは残りますので、そういうところに民間に代わりに行ってくださいというのはなかなか難しいところもあると思いますから、幾つか残るところはあるんだろうなというような感覚です。イメージというのは、今のところ本当にないんですけども、そういったことも当然考えられるかな、何人か出向するとかっていうようなことも考えられるのかなというふうに思ってます。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） すみません。当然今の時点でこうって言い切れないと思いますので、そこは理解してますので、ただ、町長がどういうイメージをされてるのかっていうことがすごく大事なのかなと思ってまして、それが結局、現場の人たちからすると、そこを起点にして考えられるので、ちょっとそれでイメージをお伺いしてるという背景です。

同じようにイメージをお伺いしたいんですけども、財源については、答弁の内容を見ると公益事業が多いので、町の予算を割いてもいいという形でお答えいただいています。方向性としてそれは違和感はそんなにないんですけども、ちょっとただ、お伺いしたいのが金額のイメージというか、これもイメージなんですけど、つまり今、大山町の観光予算って、先ほどの観光予算、一般の7,600万円と、それから大山町観光協会支援事業ということで2,400万円ぐらい今年度されていて、合計1億ぐらいという認識です。ちょっと、もしかしたらほかにも事業あるかもしれないですけど、イメージとして1億とかそれぐらいの規模なんですけども、今後DMOになったときに、この予算をさらに増やしていくのか、減らしていくのか、維持していくのかみたいなイメージって、どういうイメージされてますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。大体、毎年、観光関連予算で1億円ぐらいだという認識です。そこは間違いはないかなというふうに思ってます。今後のイメージですが、やっぱり事業とか経済とか、規模が発展していかないので、やっぱり行政予算がずっと入り続けると発展しないと思ってます。観光のDMOもそうですし、観光関連産業を発展させていくためには、そういう何か行政で補助金等を出している部分とかを圧縮し

ながら、民間の資金で回っていくような形が理想ではないかなと思っておりますが、これも今の産業構造がどうなのかとか、業種がどうなのかとか、宿泊されている客層がどうなのかとか、訪れる客層がどうなのかといったところで変わる部分も大きいと思いますので、今後は検討を進めながらということになるかと思いますが、そのいわゆる税金から支出する部分の予算をどんどんどんどん増やしてというようなイメージではないということです。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） そうすると、例えば今回マーケティング、ブランディングに力を入れていくという中で、そういった人材も入れないといけない、かつ今までよりも活動の内容、質も高めていかないといけないという中で、いい人材を確保しないといけないと思うんですけども、その何ていうんですか、その予算というのはどうやって確保していくイメージですかね。結局、予算を単純に言えば増やさない、新しいこと、新しい機能というのはなかなか難しいかと思うんですけど、その辺りのイメージはいかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。税金を財源にして出す予算というのは、中長期的に見たら、どんどん増やしていく方向ではないですけれども、やっぱりDMOをつくっていく上では、短期間、初期のうちは、恐らくコストが出てくる部分もあると思っております。一番大事なのは、財源の捻出というよりも人材の確保のほうであって、高いお金出したらいい人来てくれるんですかっていうと必ずしもそうではなくて、やっぱりここが本当に一番ネックだと思っておりますから、リーダーシップ持ってやってくれるような人材をまず見つける。その見つける作業というのが本当に大変になってくると思っております。それが地域の中にいらっしゃるのか、地域外から来てもらうのか、どれぐらいの報酬で来てもらえるのか、そういうところを検討して人を探す、ここがDMOをつくっていく上で一番のポイントになるというふうに思っています。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） 人材が大事という話、もっともおっしゃるとおりだと思います。そうなったときに人材を、しかも1人ではないわけですよ、恐らく。1人ではなくて、そういった組織の経営ができる人、地域の経営ができる人、マーケティング、ブランディングに精通している人、それらが全部1人に集約されているのも、それはそれでその人がいなくなったらリスクが大きいので、ある程度何人かに分散してそういった優秀な人がいないといけない。最初だけ税金出してもいいけども、後では何とかしてくださいという考え方だと、それはそれで組織として、どうやってその人を確保して

いけばいいのかという話になってしまうので、なかなか難しいのかなと。おっしゃることは分かるんですけども、ただ、いい人材を確保しようと思うと、それは行政としてそれなりに負担を覚悟しないと、しかも恒常的な負担を覚悟しないとイケないのかなと思うんですけども。

じゃあ、どうするんだというところで、私の1つの提案としては、大山恵みの里構想にもう一度立ち返るというのも一つの手なのかなと思っていて、結局やっていけないといけないことは、大山ブランドの構築なわけですよ。そのための観光であり農業でありそういった部分なので、今、恵みの里公社と大山観光局でそれぞれが分散してやっています。貴重な自主財源、それぞれあります。観光局でいえば、季節性はあるけれども駐車場、冬の駐車場の収益ですよ。大体年間利益が、年によっては500万とか700万とか、年によっては赤字になりますけども、そういったものがある。恵みの里公社でいえば、恵みの里の駅の物販、これがかなり貴重な収入源に、利益を出しているものになってますが、それぞれが分散しているという現状があるので、それぞれで結局マネジメントの人間を確保して、それぞれがそういった人材を抱えてるという現状にあるんですけども、本当に恒常的にそういった人材を確保しようと思ったときに、一つ、この両者を改めて、目的は同じなわけですから、もちろんやり方は違いますけど目的は同じなわけですから、ここを一体化していくということも視野に入れるべきなんじゃないでしょうか、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。今まで考えてきたこと、検討してきたことの中で、担当課の中で検討したことじゃなくて、私の頭の中でいろいろ考えた中でも、その2つのいわゆる第三セクターを1つにするというのは、発想としてはありではないかなと思っています。そこはやっぱり人材の確保、財源の確保といったところでメリットがあるということもありますし、あとは、過去からずっと言われてきた2つの組織の連携があんまりないんじゃないかということもずっと言われてきて、最近工夫してもらって、少しずつ連携増やしてってもらってますけども、そういったところも指摘をされていて、1つの組織になれば、そういったところももうちょっとスムーズにいくのかなと思います。

ただ、本拠地みたいな事務所の場所というか、物理的な場所が離れていて、その辺がうまく機能するかとか、1つにしてみたけど、何か実際は2つの組織みたいに動いとるぞみたいなことじゃ意味がないので、その辺どうクリアするのかというところが課題かなと思っています。人材を見つける意味でも、そのマネジメントができる人がある意味2人、ずっと探し続けていかななくてもいいので、人材確保の面でも恐らく融通が利くと思いますし、あとは規模の経済でもないですけども、そんなに大きい事業をそれぞれ取り扱ってるわけではないですが、2つの組織でやっている事業を1つでやることによ

って、事業を行う上でのメリットもあるのかなというようなことは考えておりますが、実際、それを実行に移すのかどうなのかというところは、現場で働いている方々の気持ちとか思いとかそういうものもあると思いますし、最終的にマネジメントをするような人を引っ張ってきたとしても、実際現場で業務をする従業員、職員というのは必要なわけですから、そういった方たちが気持ちを込めて、この地域でそういった産業を盛り上げていこうというような気持ちを持って仕事をしてもらえることが一番大事だと思いますから、無理やり2つの組織を、さあ、じゃあ、くっつけますと行ってくっつけるというようなことはないのかなと。議論の過程の中でそういう話が出てきて、お互いの組織でもそういう機運が高まってきてというような状況ができれば、1つにするということもありなのかなというふうに思っています。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） ありがとうございます。今日、幾つか質問させていただいて、私の認識をちょっと確認をさせていただきたいんですけども、今回、特に人材、人のイメージとお金のイメージと役割分担のイメージを、特に確認をしたかったんです。お伺いした結果、かなり町長としてもオープンというか、柔軟な今、姿勢でいらっしゃるんだなということが、私の認識としては分かりました。

具体的に言うと、人材についてはこれからなんですけど、ただ、最も大事だと思っていると。そこに力を入れていきたいというところを確認できましたし、あとは財源のところについても、私、危惧してたのが、町長のこれまでのスタンスとして、特に自走、自立を求める傾向があるように思っていました。今回懸念してたのは、DMOとして公益的な事業を立ち上げるのに自走をしてくださいと。これ、理想だと思うんですけど、現実的に広域でいろんな民間事業者が関わってつくるものであれば別ですけども、大山町という、ある種行政の都合でくくっているDMOで、自主財源で自立してくださいって最初から言うのは、かなり公益的な事業の性格に合わないんじゃないかなということも思っていましたし、現場からしても、恐らくどこを目指せばいいのかがちょっと分かりづらくなってしまわないかなと思っていたので、かなりその部分はクリアになりました。町長としても、基本的には行政が負担をしていかないといけないと思ってらっしゃると。

ぜひこれは、単年度の、毎回いろんな手を替え品を替えの事業を出すというよりは、ある種負担金のような形で、少なくともコアとなる人材が雇用できるレベルの支出は必要んじゃないかなと思ってますので、その辺りはちょっと具体的な財源として検討してもらえたらと思いますし、あとは自主財源は確かに必要、確保していくべきなので、その自主財源を効率よく確保するための手段として、そういった既存の第三セクターの見直しといいますか、統合含め、そういったことも検討してもらえたらなというふうに思っております。

最後に、権限と役割分担のところですけども、観光課と今、大山環境局の関係性ではなくて、新しくつくるところが予算案の策定から実行まで、全て一貫通貫して責任を持って行える体制がつけられることを私としては望みます、というか必要だと思ってます。その辺り、同じような認識であるというふうに思いましたので、今、財源、人材、それから役割分担についてイメージが確認できましたが、もし何か、今、私が言った内容で、実はそういう意味で言ったのではないんだということがあれば、補足していただけたらと思います。

最後に町長、お願いします。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長、1分半です。

○町長（竹口 大紀君） 1分半です。ちょうど終わらせたいと思いますが、小谷議員がおっしゃるところで、方向性としては御認識いただいているとおりにかなというふうに思っています。よく自立、自走を求めるようなことを言いますが、これははっきりしてまして、公益的な部分でやるところは、これはやっぱり広く税を財源としたものから支出していくというところは考えとしてはあって、自立、自走できる部分というのは、やっぱり民間というか、利益目的に活動されているような場合というのは自立していただけるような、そういうことを求めています。特に補助金がなくても運営ができるのであればそのほうが、補助金出すとどうしても内部留保できませんから単年主義になりがちで、長期的な投資だったりもしにくくなりますので、そういった意味で、自立してもらおうほうがその組織としても発展する形が見えるのかなと思って、そういうようなことを大体促しております。

DMOの設立に当たっては、やっぱり公益的な部分で税から支出する部分というのは当然あると思いますし、今後の議論の中で詰めていきたいと思いますが、その中でも全く補助金とか負担金だけでやるのではなくて、自主財源も求めていくというようなバランスの取れたやり方ができないかなというところを考えております。観光課と観光局の位置づけのように、ばらばら同じような機能が民間と行政で持つのではなくて、一体化するような形で今後も取り組んでいきたいなというふうに考えております。

○議員（1番 小谷 英介君） ありがとうございます。

○議長（米本 隆記君） これで小谷英介議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） ここで休憩とします。再開は10時30分とします。

午前10時22分休憩

午前10時30分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

次、12番、近藤大介議員。

○議員（12番 近藤 大介君） それでは、本日は通告に従いまして、2問、一般質問を

させていただきます。

まず初めに、大山町の人材育成についてということで、町長にお尋ねします。次の世代の育成をすることは、地域の最も重要なテーマの1つだと私は思います。今日は、学校教育を終えた後の、主として青年層を対象にした人材育成について町長のお考えを聞きたいと思います。

1、竹口町政6年間を振り返り、我が町の人材育成の成果や課題をどう認識しておりますか。

2、まちづくりの視点から、例えば農協青年部や商工会青年部をはじめ、農業や漁業、商工観光業などに従事しておられる青年のグループであったり、あるいは青年団であったり、そうした青年層の活動の状況をどう認識しておりますか。また、それらの活動について、町行政から支援の現状はどうでしょうか。

3、青年層などが頑張っておられる1つ事例として、幾つか上げさせてもらいますけれども、大山町長田で毎年行われているイトナミダイセン藝術祭や大山ガガガ学校であったり、あるいは中山温泉で毎月映画会の上映をしておられます、ええがな大山の取組など、町民の主体的な取組で豊かな地域文化を創造する取組がありますが、これらについて、町長の御認識はいかがですか。また、そのような取組に行政はどのように関わっていますか。

4点目、人口流出により地域の担い手が減少する中、地域の伝統文化を継承し、また、新たな文化を育み、活力のある地域産業を振興し地域の暮らしを守っていくためには、様々な場面で地域の青年層の活発な活動を促し、支援していく必要があると思います。例えば人材育成を目的に、町で1億円の基金を確保し、また、これにふるさと納税などのお金も活用しながら、各種研修事業や視察事業も含め、まちづくりに寄与する青年層の活動を支援する取組ができないか、町長のお考えを聞きたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員の一般質問にお答えをいたします。大山町の人材育成についてということで、4点御質問をいただいております。

まず、1点目の町政6年間を振り返って、人材育成の成果、課題の認識というお尋ねですけれども、まず若者世代に焦点を当てた取組としまして、大山町青年団の活動支援や地方創生事業でありますテゴテゴプロジェクト等を展開して、仲間づくりや大人と若年層の関係づくりの一助になったと考えているところです。課題といたしましては、大山町との関わりが急速に低下する高校年代との関係維持があるのではないかと認識しております。

2点目のまちづくりの観点から、青年層の活動状況の認識と支援の現状というお尋ねですが、大山町全体の青年層の中で、商工業などの青年グループや青年団などの団体に所属して、活発にまちづくりに関わっておられる方はあるということでございますが、

まだまだ少ないという認識であります。主に青年層の団体等の活動に向けて特化した支援は限定的だというふうに考えております。

3点目の町民主体の地域文化創造の取組に対する認識と、町の関与というお尋ねですが、これは御指摘のとおり、住民主体、豊かな地域文化に資する取組であると考えております。町の関与に関しては、これは自主的な活動で盛り上がりがありますので、自主的な活動を尊重することが重要であるというふうに考えております。

4点目の人材育成を目的とした基金あるいは青年層活動支援の考えについてのお尋ねですけれども、基金ということではありませんが、今後青年層の社会教育活動を支援する講座、取組などを充実・支援していきたいというふうに考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 竹口町政6年間の中で取り組んだ人材育成の成果というところで、まず最初に、大山町青年団の活動支援ということをお願いいたしました。近年の大山町青年団の活動、どのようなことが実施されていて、町はこれにどう関わり、どのような成果を上げているのか、もう少し踏み込んだ御答弁をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。詳細は担当からお答えをさせていただきますが、まず、コロナで各種イベント事業というのが、青年団のみならず中止あるいは延期になっていて、活動の範囲がかなり狭まっていると、それによって人も集まりにくくなっているといったような現状があるかと思っております。様々な大山町の町内でのイベントに、青年団の皆さん協力していただき、出店していただいたりとか、あるいはボランティア的に様々な取組をしていただいているところでもありますけれども、詳細、担当のほうからお答えをさせていただきます。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（米本 隆記君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） 本事業につきましては、担当は社会教育課ということにはなりますけれども、こちらのほうで把握している事業内容としては、今、町長のほうからも触れていただきましたけれども、イベント等への出店等があるかと思えます。今、具体でいついつの時期にどういうイベントに出店されたかというところは、資料ございませんので、後で必要に応じて提出したいと思います。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 大山町青年団、私もかつて在籍していたことがありますけれども、団員は今何名ですか。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（米本 隆記君） はい。（「社会教育課」と呼ぶ者あり）これね、ちょっと困るんですけど、それ答えられますか。（「答えれなかったらそれでいいです」と呼ぶ者あり）町長、それ……（「教育委員会に通告してない」と呼ぶ者あり）ないです。

○議員（12番 近藤 大介君） 把握はしていない。

議長。

○議長（米本 隆記君） ちょっと待ってください。

源光課長も把握はされてませんね。把握してないそうです。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 12番、近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） たしか青年団の活動助成の補助金って、10万円ぐらいだったじゃないかと思います。細々と、それでも、今の団長さん方が仲間と活動をつないでいただいているということには、私は本当に敬意を表するところなんですけれども、お世辞にも、今、大山町青年団が地域の青年活動を牽引しているというような状況だとは思っておりませんし、そういった活動の状況を踏まえて、それでも近年の竹口町政の人材育成の成果の一つなんだと言われるのであれば、せめて直近の活動状況なり団員数の状況、それから団長の日頃の悩みだとか困り事など、ある程度リサーチしてからこれが成果だと言っていたかかったなと私は思います。

青年団に限らず、農協青年部の活動だとか農業者、かつては、例えば大山地区の農友会だとか、農友会、今もありますけれども、名和のグリーンカルチャーだとか、比較的若い世代が活発にいろんな地域活動も取り組んでおられましたけども、近頃そういった姿も限定的になっているように思います。やはり青年が元気であれば、未来の大山町も明るいものになるのではないかと。町として、こういった活動をしっかりと後押ししていく必要があるのではないかと思います。

改めてお尋ねします。そういった商工会青年部や農業者、若い人たちの取組、それ以外、SNSへの取組、これらについて、今後、町はどう関わっていったらいいのか、町長のお考えを聞きたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まずは、青年団の人数とか現状。担当課、社会教育課、教育委員会部局ですので、教育委員会では十分に把握をしているところですが、こちらの部局では詳細なところまで把握をしておりませんで、もう少し詳しい議論をということであれば、また教育委員会も交えて議論していきたいなというふうに考えております。

その上で、もっと広く青年団活動ということで、基本的には社会教育の分野になると思うんですが、それ以外のいろんな各種青年団体というのもあります。大山町では、以

前のような青年層の活動というのがやっぱり活発にできていないところはあると思っています。理由としては、これはもう御承知のとおりです。青年層が少ない。どんどん減っているからというところにはかならないと思っております。人はいるけど関わりがないといったところもあるんでしょうけれども、以前は、会社勤め、会社員されている方よりも一次産業従事者とか商工業従事者で、割と時間もある程度自由にできるような部分で各種活動に取り組んでいただいていた、そういう側面もあろうかと思いますが、どうしても、今の青年層で、会社勤め、自分の仕事をするだけで精いっぱいとか、あるいは結婚して家庭も築いておられたら、仕事と家庭のことをするだけで地域活動まではとてもちょっと参加できんなといったようなところで、時代の変化も要因の一つとしてあるのではないかなというふうに思っております。

今後も、町としましては活動をどんどんしていきたいという人をサポートするようなことはしていきたいと思っておりますし、あとは、今後の進め方として、今、大山町の地方創生の関係の事業で子供と大人をつなぐようなまちづくりの事業というのをやりますが、そのちょうど間ぐらいの20歳代とか、そういったところを対象にしたまちづくりに関わるような事業というものも考えておりますので、そういったことを展開することで、地域への関わり、町への関わりが深まっていくような青年層を創出していきたいなというふうに考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 青年層の活動は、総じて低調であるというような、少ないというような答弁もあったかと思うんですけれども、私も言いましたけれども、確かに既存の青年組織の活動は以前に比べると物すごく限定的に、低調になっている面はあるんですけれども、一方、新しい取組が結構多い、増えていると思います、大山町では。その一例として、私はイトナミダイセンの取組だったりとか、中山温泉での映画上映会の取組など、一つの例として挙げさせていただきましたけれども、ほかにも、それこそ子育てに関わる取組だったりとか、ちょっと適当な例がずっと今出てきませんけれども、意外と多く、増えてきていると思います。そういった取組に関して、町長は自主的な活動があることが重要だと答弁いただいておりますけれども、確かにそうなんですけれども、自主的な取組だからこそすばらしいとは私も思いますけれども、でも、行政としてやはりそこに何かしら関わっていく、支援していく、そういうことも必要なんじゃないかなと私は思うんですけれども、支援の在り方について、町長、どんなふうに考えられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員、よく地域でこういう活動されていますから支援どうだというお話しされますが、地域で活動されている方もいろんな考えあると思っていて、できれば行政に関わっ

てほしくないとか、行政が関わると全然面白くなくなる、面白みがなくなるみたいなふうに思ってらっしゃる方も地域にはたくさんいらっしゃって、そこに行政としてどんどん出しゃばっていくというのは、あんまりよろしくないのではないかなと思っています。その上で、地域で活動されている方が、ぜひ行政と連携してとか、協力してほしいとか、何か支援してほしいとか、そういうお話とか御意向であれば、そこはしっかり協力、連携を、今までもしているところでありまして、これからもしていきたいなというふうに考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 中には、あれこれ口出されて制約が多くなるんだったら補助金なんか別に必要ないって言われる活動、団体ってあると思うんですけども、今幾つかそういったこと聞いたりはしていますけども、でも、例えばイベントするのに周知の協力をもっと行政でやってもらえんדרかうとか、あるいは、例えば今度4月にティラノサウルスレース、昨年、住民の方の主体的な取組で行われて、全国的なニュースにもなって、一つのムーブメントをこの大山町からつくったのかなっていう取組、ティラノサウルスレース、ありますけれども、これも自分たちでやりたい、やるっておっしゃってますけども、でも、当日、会場にはたくさんのお客さんが来られるようです。場所的にトイレが不足します。せっかく大山町に県外からもたくさんお客さんが来られるのに、トイレなどで不自由な思いをさせるのは、来られた方に対して申し訳ない。何かしらこういったところに、やっぱり行政としてサポート、支援あったらいいなと思うんですけども、4月中旬頃の開催のようなんですけれども、なかなかその解決策はまだ見いだせてないようです。そういったところで、やはり住民の自主的な活動と行政、もう少しうまく連携取れないもんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

それはやっぱり主催者の皆さんの気持ち次第だと思います。町としては、例えば4月に行われるティラノサウルスレースも名義後援の申請があって、それは名義後援ということで協力はさせていただきたいと考えておりますし、それ以外に特に現状こういうところを協力してほしいというような意向を伺っていない状況でありますから、主催者の皆さんの気持ち次第だと思います。本当に、そこで行政が入っていったら何か面白くないとか、自分たちの思ってるのと違うなというふうに思われるのであれば、それはマイナスでしかないなと思いますし、何よりも参加者の方も大事ですが、主催してる皆さんの気持ちも大事だと思いますので、その関わりの部分は慎重にやっていきたいなというふうに思います。協力をしないという立場ではなくて、あくまでも主催されている皆さんの気持ち次第だということでございます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 今回こういったことを質問するに当たって、幾つかの団体、個人、青年層で地域に関わるような取組、イベントなどを主催しておられる方の声を少し聞いてきたんですけども、比較的共通して言われるのは、もう少し行政に、役場、町長なり役場職員の方に関心を持ってもらいたいということをおっしゃられました。特にお金をしてくれとかっていうことではないんだと。こういう取組をしているということに関してもう少し関心を持ってもらえたらうれしいということをおっしゃっていました。こういった声について、町長、どう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

大山町内で現状で様々な活動をされていると思います。近藤議員が例として挙げられた活動もそうですし、それ以外にも物すごくたくさんの活動をされていて、全部の活動に対して興味関心は持っておりますが、全部の活動に関わるとか全部の活動を見に行くというのちょっと時間的に難しいですから、見に行けてないものも当然あります。ただ興味関心としては、しっかりそれぞれの、町内の全ての活動に対して持っているところでございます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 町長が、いや私は持ってるんだということが大事なのではなくて、やっぱり当事者、町長言われるように、いろんな活動をしておられる、様々な活動があります、青年層に限らずね。が、関心を持ってもらえていないって思う、言われる背景に何かあるかだと思うんですよね。そこをやはり今の大山町の行政の課題として、組織として、そういった住民主体の取組に寄り添う姿勢、困ったことがあったら協力しますよっていう、いつでもサポートしますよっていう姿勢を理解してもらおう取組がやっぱり根本的に足りてないんじゃないかなと思います。後の質問にも関わってくるころではあるんですけども、もう少し、町長が全部のイベントに行けって話じゃないんですよ。組織として、住民の主体的な取組に寄り添っていかうと、声を聞いていかうと、そういう声をしっかり組織の中で課題として共有していただくことが大事だと思うんですけども、そのような取り組みしていただけませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

それぞれの職員が、仕事、行政職員としての立場でもそうですし、地域住民の一人としてもそうです、様々な活動に関わっていたりしますし、興味関心を持っていると思

ます。行政に対して相談しにくいという部分も、その話に限ったことではなくて、様々な面であろうかと思しますので、引き続き、町民の皆さんが相談しやすいような役場にしていきたいと考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員、人材育成ということで、何かイベントの内容に関わったような発言になってますんで、その辺のところ気をつけて発言をお願いいたします。

○議員（12番 近藤 大介君） いえいえ、何を注意されるのかよく分かんないんですけども。イベントなどを実施することがやっぱり一つ人材育成につながるんですよ。若い世代の経験、いろんな経験を積んでいく、自分から主体的に関わっていく、そういう経験を多く積むことが人材育成に関わるということで、議長にもそういう御理解を今後していただきたいと思うわけですけど。

町長、先ほど上手に答弁まとめられたような格好なんですけど、あの答弁だと、行政はこれまでも十分、私が言った趣旨での取り組みしてきているので、今後も引き続きやっていきますというふうに受け取れて、特に何かしら今後組織としての行動を改めなければならないっていう認識ではないように受け止められました。それでいいんですか、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今までも住民に寄り添った、いろいろ相談等しやすいような役場の雰囲気づくりというものは取り組んできたところではありますが、まだまだ不十分なところがあるので、今後も引き続き改善をしていきたいというふうに考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 引き続き改善、どこをどう改善しますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員が言われているところとしては、そういう役場の雰囲気、意識なんだというお話でした。御指摘のとおりだと思います。相談しやすい雰囲気があれば相談ができると思いますし、相談しやすい人がいれば相談しやすい環境ができると思っておりますので、引き続き、町民の皆さんとのコミュニケーション、しっかり取れるような、そういう職員の雰囲気づくり、人材育成、あるいは教育、研修、しっかりやっていきたいというふうに思います。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） ぜひそういう取り組みしていただきたいと思います。

その上で、この項、最後に言うておりましたけれども、私はやっぱり、若者が地域をもっと盛り上げていこうとするときに、イベントなどを開催したりする場合、使いやすい、よくね、結局こういうことやりたいですって言うても、予算がないという断られるケースが多いと聞いています。予算確保しようと思ったら来年になると、それじゃあ遅いと。やはり思い立ったが吉日というところもあるので、何でもかんでも、そんな簡単に予算はつかんものではあるけれども、でも、何か若い世代が挑戦しようって思ったときに、小回りの利く財源があると、お互いがいいんじゃないかなと思うんです。行政としても、やろうとする事業主体側も。そういった部分の財源だとか、あるいは、かつてはやはり青年層にいろんな視野を広げてもらいたいということで、海外に派遣するような事業もあったし、海外じゃなくっても、商工会だったり、農業青年であったり、それぞれが活躍する分野で、国内でも先進地の取組を見に行きたいといったときに、このお金で、旅費に使って行ってきてくれよと町が後押しするような、やっぱり財源ってあったらいいんじゃないかなと。

今、大山町の基金は約62億円あります、一般会計ですよ、一般会計だけでも62億ある。その中から1億円ぐらい、ちょっと人材育成のために使うんだという基金をつくって、そこにふるさと納税のお金も活用しながら、人材育成のために使える自由度の高いお金、私、用意したらみんな喜ぶと思うし、こういう財源あるからどんどん活用してくれよと町民にPRする、もっとやる気を持ってもらう、そのためにもそういうものがあつたらいいなと思うんですけど、少し検討してみませんか、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、基金の話は後にして、国外研修とか国内の視察だとかいうところの支援ですが、まず国際交流の部分で、子供だけじゃなくて青年層含めて大人も、このアフターコロナにはもっと交流をしている韓国とかアメリカの自治体と連携、交流が深まるように、もっと青年層にも積極的に行っていただけるような、そういう支援はしていきたいというふうに思っております。国内の先進事例の視察等ですけれども、いろんな青年団体あると思いますが、例えば商工会であれば商工会自体に対して町から補助金が出ていて、商工会の青年部もありますけれども、青年部が行かれる視察等は、自分たちの手出しもあるのかもしれませんが、商工会自体、本体から出ているところもあると思うので、人材育成の部分でって言うことで補助金は出してませんが、各種、町に関係している団体の青年部門の団体であれば、何らかの補助が間接的にでも入っているのかなというふうに思いますから、そういったものをうまく活用していただいて、国内の先進事例等の視察には足を運んでいただければというふうに思っております。

基金の話ですけれども、これはいろんな考えあると思うんですが、地域で活動される

わけですから、それぞれどの地域で活動されるかにもよりますが、地域自主組織との関わりとか連携ってというのはどこかで出てくる部分だし、それがあって活動はまだまだ広がりが出るものと思っています。今、地域自主組織には、年間の活動補助金以外に、ふるさと納税を原資にして、例えば複数の地域自主組織で連携とか、いろんな地域の人と連携して何か事業を行うときに、その基金からお金を支援して、新たな取組とか広がりのある活動をしてもらえるような仕組みをつくっておりますので、あんまりその財源の活用が進んでいない面がありますけれども、今後、地域で何かそういう活動を思いつかれた際には、ぜひそういった財源があるというような認識を持ちながら活動していただければと思いますし、また、御相談いただいた場合には、そういったものの案内をしっかりと積極的にやっていって、今後の大山町の青年層の地域活動が盛り上がるように、行政としても協力、支援をしていきたいと考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 多分そういうことだとあんまり変わりませんよ。今の答弁で聞いていると、例えば地域自主組織を通じてだとか、商工会だったり農協を通じて、そういう部分も当然必要ではあるんですけども、誰もが農協なり商工会なりに所属しているわけではない。それから、関心がその地域、光徳地区だとか高麗だとか下中山だとか、関心がそこに限定されてる人ばかりじゃないわけですよ。例えば、野球を通じていろんなところと交流をしたいというようなことになったときに、特に自主組織の取組とはあまり共通しなかったりする取組もあったりする。それから、海外でいろいろ視野を広めたいけど、別にテメキュラに行きたいわけじゃないんだと、それから襄陽に行きたいわけじゃないんだと。もちろんそれはそれで当然大事ですけどね。さっき町長が例示されたところからあぶれる人のほうが圧倒的に多い中で、そういった人たちにも取組を町は支援するよっていう姿勢をやっぱり示す、いつでも協力するっていう姿勢を示すためには、私やっぱり一つ基金をつくって自由度の高い補助事業を創設する、私そのほうがいいと思うんですけどね。最後にこのことだけ、短くちょっと答弁してください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

先ほど、この質問は最後という話だったので、うまく何かまとめてしゃべったつもりだったんですが、追加でもう1個質問がありました。自由度の高い基金という話なんですけど、自由度が高い基金を税金を財源にしてやるっていうのはすごく難しいのかなというふうに思っています。いろいろ例示したもの、それから近藤議員が例示していただいたもの、いろんな青年活動とか所属団体とかあると思いますが、その団体に対しての支援とか、国際交流でいったらテメキュラとか襄陽郡とか、そういうところの交流というのは、目的とか意義みたいなものがやっぱり明確であって、そこに対して公益性があ

るから税金から支援をしますよというのはやりやすいと思うんですが、自由度の高い基金つくって、それを使って、じゃあ海外に行きますって、それ何か海外旅行じゃないんですかって言われたときに、やっぱり説明が最後難しくなるんじゃないかなと思っていて、自由度が高いのは確かに結構なことかと思いますが、そこはやっぱり税金を使ってやっていくという面を見たときに、何らかの切り口がないと厳しいのかな、それも分かりやすい切り口がないと厳しいのではないかなというふうに考えているところです。今後も、基金ではないですけども、しっかり活動は支援していきたいというふうに思っております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 次の質問に行きたいと思います。

今の質問の延長になることにもなるんですけども、また、似たような内容で12月にも一般質問してるんですけど、改めて。住民参画と協働のまちづくりについてということで、町長にお尋ねします。12月に、大山町のまちづくりということで質問したばかりなんですけども、改めて町長のお考えをお尋ねします。

1、住民参画、協働のまちづくりについて、町長の考えをお聞かせください。2、住民参画、協働といった事柄は、町行政においてどのように位置づけられていますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員の2問目の質問にお答えをいたします。住民参画と協働のまちづくりについてということで、2点質問をいただいております。

まず、1点目の住民参画と協働のまちづくりについての考えのお尋ねですが、これは先ほどのお答えとも重複するところあるかもしれませんが、引き続き自治会などでの自主的な取組について、それぞれの考え方を尊重したいと思っております。大山町といたしましては、必要な情報発信や支援につきましては適切に行っていく考えでありますし、地域ならではの課題解決に取り組んでいただいております地域自主組織の活動も併せて支援をしっかりしていきたいなというふうに思っております。

2点目の住民参画、協働は町行政においてどのように位置づけられているかというお尋ねですが、大山町未来づくり10年プランにおきましては、基本計画に地域の思いや力を発揮できる環境をつくろうと定められております。その実現のために、地域自主組織が活動しやすい環境をつくるとうたっておりますので、その考え方に沿って、今後行政として関わって、あるいはそのように位置づけて進めていきたいというふうに考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 住民参画なり協働ということで、自治会なり自主組織の活動を支援するという御答弁なんですけども、12月なり去年の3月にも議論しました。その際にも申し上げてるんですけども、竹口町長はじめ今の大山町行政は、非常に住民参画、協働ということを限定的に考え過ぎておられるんじゃないかなど。例えば、私、観光協会の取組なども会員として参加しておりますけども、観光協会の名和支部として名和の歴史的な資源や藤寺など名所ですね、花の名所を広く、また、町外にもアピールしたり大切に保存していったりといった取り組みしてるんですけども、この観光協会の取組と、それから同じように町の観光政策、これは協働ということでやってるつもりなんですけど、大山町側には協働しているという意識はないんでしょうかね。それから、今後観光の地域づくりを進めていく上で、積極的にそういう観光協会なりその他観光に関わる人の声を聞いて施策に反映していこうというお考えはないんでしょうかね。もしあったとしたら、こういう答弁にはならないと思うんですよ。当然、自主組織なり集落の取組はもちろん大事ですけども、住民が活躍する場はそこだけではありません。観光に限らず交通安全の取組だったり消防の取組、青少年健全育成のことだったりとか、多岐にわたるところ、そこを住民と一緒にやっていく、住民の声を聞いていく、それが住民参画だったり協働だったりすると思うんですけども、そういった姿勢が今の答弁からはちょっと感じられなくて残念に思います。どうなんですか、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員御指摘のとおりで、なるべく短く答弁をまとめるようにしておりますので、すごく限定的な話になっておりますが、これは御指摘のとおり様々な地域で活動されている人や団体があるわけですから、そういった組織等と連携をしていくという考えは持っておりますし、今までも、例えば例に出された観光協会であっても、人的、財政的な支援をしておりますし、例えば今の海の観光拠点の整備に関しても、委員として入ってもらったりしてしっかり声は聞いているところでありますし、あと交通安全の関係とか消防団の関係も、これは少なからず行政、職員関わってやっていっておりますので、協働のまちづくりということで進めていけているというふうに考えております。

あくまでも答弁、最近ではなかったですが、過去に思いを全部答弁書に書いたら、近藤議員から長過ぎるという御指摘をいただいてから、なるべく簡潔にまとめるようににはしているんですけど、長くならないようにまとめたら、大体エッセンスこういうところで。そのほか答弁した以外にも、たくさん地域活動されていて、そことの協働のまちづくりは進めていっているというような考えでございます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 長い答弁は私はあまり好きじゃないので、簡潔にまとめ

ていただくのは非常にありがたいんですけども、ただ、大事なところが抜け落ちているのを簡潔にまとめたというのは少し違うんじゃないのかなと。同じような質問何度もさせていただいて、その際に、住民参画、協働、幅広いですって、その都度、町長は分かっていますと、そのように理解していますって、その都度やり取りでは言われるけども、改めて聞くと抜け落ちるっていうことは、やっぱりだんあまり意識しておられないんだろうなと。現にそういった、先ほど最初の一般質問でも、もうちょっと行政に、住民の活動に関心持ってもらいたいっていう声、たくさん聞くんですよ。結局そういうところ、今の大山町の行政の姿勢がそういったところに表れているように思います。

何回か取り上げてますけども、大山町の総合計画、今の未来づくり10年プラン、この中に大切にしたい2つの視点ということで、住民や、住民の中に事業者は含んでますけども、住民、事業者と行政との関わり、どうあったらいいかということが書いてあります。簡潔に言うと、住民、事業者は積極的にまちづくりの主役になること、それから、サービスの受け手であると同時に担い手として行政と連携し、協力していく。これからの時代は、今そういったことが住民、事業者には求められるし、なおかつ行政サイドでは、住民、事業者と共にまちづくりの在り方を考える、地域の実情や住民の声を把握していくと。そういったことが書いてあるわけですけども、そういった、行政サイドからいえば住民や事業者と一緒にやっっていこうという姿勢が、やはり今の大山町、欠けているように思います。集落の取組だったり自主組織の取組はそれなりに支援されてるけれども、それ以外の活動、特に新しい取組だったり行政のほうからしっかり寄り添っていく、困ってることないですかサポートしていくような姿勢が、やっぱり私は今足りてないんじゃないのかなと思います。その辺り、改めて考えていただきたいですし、そういったこと、住民サイドからも主体的に地域のことに関わっていく、そういう取組も行政の側からもっと促していく必要もあろうかと思えます。

そういった意味で、12月にはこれも、住民が地域のこと、住民グループが地域のまちづくりにつながるような取組、自由度の高い補助金設けたらどうですかと、行政と協働してやっっていく住民の取組に、材料費だったりなんかに、講師の謝金とかに5万、10万ぐらいでも補助するような取組検討してもらえませんかという話もしました。町長、そのときはそういった趣旨で検討しますということもおっしゃっていただいているんですけども、その後の検討状況はどうかということも含めて、最後、終わりにしたいと思うので、町長の総括的な答弁をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。2分です。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

近藤議員、最後の質問だということをおっしゃって、まとめるともう一回ぐらい出てくるかなと思っておりましたが、もう、ちょっと時間的にないので本当に最後かなと思います。うまくまとめたいと思います。

まず、答弁の中で一部しか書いてないので、そのほかがうたっていないから地域に対して協働のまちづくりの姿勢が足りてないというお話でしたが、やっぱり一部だけ、1個だけ書けば何か抜粋したなって感じなんですけど、一部、何個かだけ書くと、書いてないほかの活動はどうなんだという話になってきて、結局書き出すと全部書かないとまとまった話にならないので、どうしてもそうすると答弁長くなりますから、まとめるとこんな感じ。長くてもいいということであればたくさん書けると思っています。

例に出していただいた活動以外にも、大山町と連携して様々な取組進めておりますし、近藤議員、自らの所属の地域活動されている団体のお話出していただきましたが、1つだけ、近藤議員所属されている大山町の日赤奉仕団の話だけが出てこんなというふうになっておりましたが、先日も、名和公民館祭りで、近藤議員はじめ日赤奉仕団の名和支部の皆さん、頑張って、災害時の炊き出しの御飯の味を食べてみてくださいとかいってやっておられました。そういった日赤奉仕団の皆さんも、その活動自体には町としてあまり協力はできてないかもしれませんが、例えば募金活動をするので役場のほうでも募金箱を設置してくださいだとか、そういう物理的なところで様々な支援、協力をしながら協働のまちづくりを進めていると思っておりますし、一つ一つの団体を言うとなんか長くなりますが、そういった形で様々な活動をされている皆さんと行政で力を合わせてまちづくり、地域づくりというものは進めていっているという考えであります。

今後、地域の皆さんが、いろんなことを発案されて新たな活動をされるというのは非常に大事だというふうになっておまして、そのための活動の資金としては、繰り返しになりますが、地域自主組織に関わっていない方もあるというふうにおっしゃると思いますが、それぞれの皆さんやっぱり地域におられるわけですから、地域自主組織の関係の活動で自由度の高い財源というものを用意しているので、何とか工夫してそちらを活用していただけるようなことであれば、地域にとっても、個人の方にとっても、行政としても、いい状態になるのではないかと考えております。今後、様々な御提案いただきましたので、そういったことを踏まえて、協働のまちづくりを進めていきたいと考えております。以上でございます。

○議員（12番 近藤 大介君） 終わります。

○議長（米本 隆記君） これで近藤大介議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） ここで休憩とします。再開は11時30分とします。

午前11時22分休憩

午前11時30分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

次、8番、大原広巳議員。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） そうしますと、8番、大原です。今日は2問用意しておりますので、よろしくお願いします。

そうしますと、まず最初に、淀江インターの西側の跡地の活用問題についてっていうことで、実は12月の定例議会のときにも質問を出してはいたけども、予定をされていた審議会が私の質問より後になってしまいましたので、3か月たってしまいましたけども、改めて経過なり町長の思いを聞きたいなというふうに思いましたので、今日、まず最初にその件について質問いたします。

そうしますと、小問を3つ用意しておりますので読み上げます。1つ、審議会の進捗状況は。2つ目、広域防災施設として、ヘリポートの併設を考えてみないか。3つ目、米子道終点から10分足らずの距離にあり、サイクリングロードの拠点やキャンプ場など交流拠点の施設を兼ねた複合施設を考えてみないか。以上、3点お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 大原議員から一般質問をいただいております。

まず、山陰道淀江インター活用事業についてということで、3点質問をいただいております。

まず1点目の審議会の進捗状況につきましては、12月に第1回検討委員会を開催いたしまして、様々な御意見をいただいたところであります。現在、第1回の委員会でいただいた意見に沿った資料を十分に収集した上で、第2回の検討委員会を実施しているというふうに考えているところです。

2点目、広域防災施設として、ヘリポートの併設を考えてみないかとお尋ねですが、検討委員会の議論の中でも防災機能を持たせてはという意見も出ておりましたので、参考にさせていただきたいというふうに思います。

3点目の滞在型の施設を兼ねた複合施設を考えないかというお尋ねですが、これも検討委員会の中で、ナショナルサイクルートの拠点や宿泊できる施設があればいいというような意見もあったので、参考にさせていただきたいと思います。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） このテーマが議題にのって半年以上たつわけですけども、今の審議会の進捗状況は、所轄の委員会でもありますので随時情報はもらっているわけですけども、広域的なメンバーも入っているので時間はかかるんでしょうけども、1回目の意見を収集する会は終わりました。その後、今後、町長は、具体的にどういうふうな施設にしたいかということの意見を、どのタイミングで出されるつもりなのか。前回は、第1回の審議会が済むまでは自分の意見は言わないということで、具体的な構想は

言われませんでした。いつのタイミングで、今後、そういう、町長が一番リーダーシップを取ってこういうふうなものにしたいという、細部のところはともかく、大筋としては町長がリードをして決めていかなくちゃいけないというふうに思うんで、町長はどういうつもりで今考えとられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

町長がリーダーシップ取ってどんどんやっていかないけんがなというような御意見もあると思ってます。ただ一方で、いや、そうじゃなくてもっといろんな、多様な関係者とか地域の声も聞いてやってくれよというような声もあると思ってます。スタートの時点である程度もう絞りに絞って、もう大体これでいくのであと御意見くださいだと、何か決まってるものにちょっと何かアイデア付け加えるぐらいのことになっちゃって、参加している側からしたらあんまり面白みがないというところで、本当にもう全くゼロでスタートしてます。

考えとしては、例えば町として、過去にも議会での御説明でも、どういうものがあったらいいんだというふうな話を聞かれて、本当ぱっと思いつくのは、例えばお店、それも物販のお店だったり地域産品取り扱うようなお店、道の駅のようなものであったりとか、宿泊施設があったりとか、何かいろいろ思い浮かぶわけですが、そういうところ限定をせずに、幅広く御意見をいただいて、あの立地で大山町としてあの場所が生かせるような、そういうような取組にしていきたいなと考えているところです。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） 私といたしましては、やっぱり町長が旗を振って、町民も、もっともっと町長に物申していくという姿勢はどうかと思いますけども、どんどん意見を上げて、最後は町長がトップダウンで決めるということでもいいと思うんですけども。全然、今のまちづくりの会やらいろんな会に出ても、淀江インターの話題が全く出てきません。ちょっと関心度が落ちたんじゃないかなというふうに、実は思います。

それで、今日せっかくこうやって放送見ておられる方に、もう公開されていますので、この場で言っていると思うんですけども、第1回の審議会でどのような意見が出たかっていうのを観光課がまとめていますんで、ちょっとざっと、二、三分かかるかもしれませんが、読みたいというふうに思います。

主な意見として、行政の運営施設か民間の商業施設なのか、何を目的としているか。公共的な施設ならば、費用がなるべくかからない運動公園的なもの。3つ目にですね、道の駅や農産物直売所など観光の振興に資する施設。4つ目、ここを拠点にして大山寺や淀江の観光をしてもらえるような施設。5つ、大山町の農産物のアピールができる場所。6つ目、チャレンジショップをつくり、起業するための修業の場。7つ目、水素ス

ーションはどうか。8つ目、この場所がどれくらいの方にニーズがあるのか不鮮明。9つ目、新興住宅地等で人に住んでもらえる拠点。10個目、大山町の仕事場だったり観光だったり、いろんな産物をPRできる施設。11、道の駅で滞在型観光のベースとなる拠点。12、大山町には既に道の駅があるため、同じものを造っても意味がない。アウトドアサイクリングの拠点。13番目、ここでしか体験できないコンセプト（とがったコンセプト）が集客力を呼ぶと考える。例えば、牛の駅など。14番目、新しいスポーツの形がここで提供できれば、スケボーやマウンテンバイクなどの基地。15番目、淀江海岸は初心者用のカヌーに向いている。16、日本サイクリングロードの認定に向けたサイクリストの拠点。最後になります。県外者が車で来て、飲食や宿泊、レンタサイクル、自転車のメンテナンスができる施設。ということで、まとめてありました。

これを読ませてもらうと、大きく分けて、やっぱり観光、交流の切り口が一つと、あとは町内の人も集まれるような公園的なもの、あるいは防災拠点なりサイクリングの拠点なんかもありました。大体この中から取捨選択して最終的には決まるというふうに思います。町長もこれ読まれたと、見られたと思いますけども、町長の感想をまず聞きます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

委員会での出た意見の、それを読んだ感想ですけれども、大体言っていたアイデア、全部入れ込んで実現ができるんじゃないかなというふうに思いました。エッセンスとしては観光交流拠点だったり防災拠点だったりとかいうところはあるのかもしれませんが、アイデアとして出していただいたような機能というのは入れ込んだ形で、サイクリングの拠点にもしつつ、カヤックとかの拠点にもしつつ、公園的にちょっと憩いの場みたいなものも造りつつ、お店を造ったり、宿泊施設を造るとか、誘致するのか分かりませんが、そこに設置をする。そういうようなことはできるのかなというふうに感じました。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） 町長は、今日の段階では、これだけは外さんとかいうような特定の発言は避けられましたけども、また質問の最後に、もしこれだけはというものがあったら言ってもらいたいというふうに思います。

実は、去年の秋に、私たちの経済委員会で四国のほうに視察に行ってきました。それで、そこで道の駅、あるいは観光案内所などを見て回りまして、今回、淀江の跡地のことがテーマとして上がっていましたので、参考になるかなというふうに思って見てきました。その見てきたところは、ぜひとも委員会としては町長に勧めて、ぜひとも入れてもらいたいなというふうに思いましたので、ちょっと概要だけちらっと話させてもらい

ます。

2番目の質問でも、防災拠点の関係でヘリポートの話もしましたが、実は徳島県の板野町という道の駅に行きました。その総面積が4万1,000平米、4町ほどです。ほぼ今回の跡地と全体の大きさは一緒なのかなというふうに思いました。それで、ここは今取り沙汰されてます南海トラフの地震に対応するということで、防災拠点にするってことが最初の目的でスタートした施設です。その後、それだけでは人も集まらないので、農産物の直売所あるいはレストラン、それから足湯、ドッグラン、それからレンタサイクル、EV充電器、そのほかアマチュア無線室や移動式水素ステーションなどをそろえた複合施設になっております。内閣府の地方創生拠点整備交付金事業という国の事業にのっとって造っておられますので、予算的にも安上がりの道の駅を造られたのかなというふうには思います。ぜひともここを参考にしてもらって、防災の切り口の施設は必ず入れてもらいたいなというふうに思います。淀江は、あそこは高台になってますんで、弓ヶ浜半島はずっとゼロメートル地帯ですので、津波だけじゃなくて、いろんな災害のときにも活用できるいい場所にあると思いますので、ぜひとも考えてください。

それから、もう1か所、高知県高知市の駅前にある観光案内所に行ってきました。これは、ちょうど高知市というのは高知県のど真ん中にありまして、県内の観光交流の拠点となっています。それで、面白いと思ったのは、高知県の全部の町が参加して、龍馬パスポートという割引券ですわね、を県全体でやったりまして、どこに行ってもそのパスポートが利用できるような体制で、すごくPRもよくされてましたし、駅前にちょこんとあるような施設かななんて思って寄ってみたら、すごくいい施設でした。こういう、あそこも鳥取、島根のもう真ん中の位置にありますんで、ぜひとも鳥取、島根連携をする観光拠点、米子道を下りて、東に行く人、西に行く人、それぞれがここに寄れば何でも分かるような施設ができたかなというふうに思います。これもぜひとも取り入れていただきたいというふうに思います。

町長、もうちょっとこうしたいということがありましたら、お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、防災の機能というところですが、大原議員から一般質問出てから、ちょうど先週、仕事で県外出張があって、見せてもらった道の駅、新しい道の駅ですが、そこ、ヘリポートがあって、これ、質問の内容とすごく合ってるなと思って、そういう感じで見えていたんですが、ヘリポートがあるという機能的なところはもとより、財源的なところをいろいろ聞き取ってますと、今、防災の設備投資とか防災の施設を造るのに、いろいろ国からの財政的な支援があったりするので、そういったところで、整備に予算が、すごくうまく財源が使えるのかなというふうに思ったところでした。道の駅等に関しては、地方創生の拠点整備が使われているようなところもあるので、御紹介いただいた徳島県

の道の駅の例なんかも参考にしながらやっていけるのかなというふうに思いました。いずれにしても、やっぱり大規模な投資になるような事業も当然想定に入ってきますので、財源の問題というのは出てくると思います。そのときに、いろいろ活用できる有利な財源を組み合わせるとどこまでできるのかということも、今後の検討の中では話し合いをしながら進めていきたいなというふうに思っております。

それから、もう一つの高知県の龍馬パスポートの取組がありました。周遊してもらうという機能だけではなくて、その龍馬パスポートの仕組みは、今、民間企業が会員を維持、あるいは会員を育てるのような表現をされるところもありますが、そういう仕組みとして、ステージアップとかランクアップみたいな仕組み取り入れてやられてるんですが、その高知県の龍馬パスポートというのはステージアップ制度みたいなものがあって、だんだんだんだんリピートして通ってもらうとか、立ち寄る施設が増えるとか、宿泊数が増えるとどんどんパスポートの色が変わって行って、会員の、何かランクが上がっていきますみたいな仕組みをやられていて、そういうところは町内の、今まで周遊の仕組みとかはいろいろあったんでしょうけれども、リピーターを増やしているところに行っていただくという意味では、町内の周遊だけではなくて、会員のようなリピーターをしっかりと維持、確保、あるいは育てていくような考えからすると面白い仕組みだなというふうに思いましたので、淀江インターチェンジの施設の整備に併せてでもいいですし、それ以外とは別の部分でもいいので、ぜひ検討はしていきたいなというふうに思っております。

○議員（8番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） そうしますと、1問目はこれで終わりたいというふうに思います。

2問目は。

○議長（米本 隆記君） ちょっと待ってください。

正午には少し早いですけども、1問目が終わりましたので、ここで休憩とします。再開は午後1時とします。

午前11時54分休憩

午後 1時00分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

午前中に引き続き、8番、大原議員の一般質問を続けます。

大原議員、どうぞ。

○議員（8番 大原 広巳君） はい、議長。

そうしますと、午前が続いて2問目の一般質問を行いたいと思います。

2問目に、もう1年たちますけども、畜産業の飼料価格が上がることによって、かな

り畜産業に影響が出ています。飼料そのものの価格もそうですけども、原油の高騰やら円安ですよ、円安も加わって、さらに価格が上がってしまいました。酪農家の皆さんにちょっと話を聞く中で、去年の春から秋にかけておよそ5割、それから秋からここに至るまでにまたさらに5割という形で、1年前のおよそ2倍に飼料の価格が上がっているということで、大山町も次々支援策を打ち出していますけども、追いついていないのが実情じゃないかというふうに思います。特に飼料をたくさん、濃厚飼料も含めて使われている酪農家の皆さんは、畜産業の中でも一番影響を受けてるんじゃないかなというふうに思います。私も農業をしています、畜産のほうはあまり詳しくはありませんけども、同じ農業を始めた頃から酪農家の皆さんとも仲よくしていますので、このたび一般質問で初めて畜産のほうの關係に質問させていただきます。

そうしますと、小問を3つ用意しておりますので、読み上げます。酪農家支援はこれで十分か。飼料高、原油高などが長期化し、農林水産業が苦しんでいる。その中でも多額の初期投資が必要であり、乳価価格に転嫁しにくい酪農家が廃業の危機に立たされています。

小問を3つ読みます。昨年秋に続き、自給飼料生産支援を行います、これだけでよいでしょうか。2番、耕畜連携の堆肥活用に進展はあったか。3つ目、県内の乳業メーカーと連携して、町内から廃業者が出ないように、基金を立ち上げ、運転資金の援助ができないか。以上3点お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 大原議員の2問目の質問にお答えをいたします。酪農家支援はこれで十分かということで3点御質問をいただいておりますので、順番にお答えをいたします。

まず、1点目の、昨年秋に続き、自給飼料生産支援を行うが、これだけでよいかのお尋ねですが、これは酪農家への支援が十分ではないという考えもございましたし、また、併せて大山町酪農組合からの要望も受けまして、町独自に自給飼料生産支援のための種子代助成を計画したところであります。また、鳥取県といたしましては、来年度も畜産経営緊急救済事業によりまして酪農家への飼料代の支援を計画しているところでありますので、大山町としても同様に、支援に向けた予算措置を考えているところでございます。

2点目の、耕畜連携の堆肥活用に進展はあったかのお尋ねですが、肥料価格高騰対策に取り組む中で、化学肥料の低減に向けた取組メニューの一つに堆肥の利用がありまして、申請者の約6割の方が選択をされているところでございます。今後、ブロッコリーや芝、梨、白ネギを中心に、町内産堆肥の利用増加が見込まれているところでございます。

3点目の、県内の乳業メーカーと連携して、町内から廃業者が出ないように基金を立ち

上げて運転支援の援助ができないかとお尋ねですが、乳業メーカーに確認をしましたところ、大山町独自の基金立ち上げは難しいということから、今後、産地全体で酪農家支援策を検討される中で、一案として提案させていただきたいと思います。今後も酪農組合や乳業メーカーと意見を交わし、求められる支援策に速やかに対応するよう考えているところです。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（8番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） そうしますと、3つ目の質問で、今後の援助のことなんか、いろいろ基金の話とか、去年の県の支援策に大山町も相乗りする形でちょっと金額を出しますと、大山町としては最終的に5,690万ほど、飼料高騰の影響緩和策として、影響額の4分の1を補助する形で出しておられます。それから、町長も言いましたように、新年度の予算では、町が単独で酪農組合さんと話をして、種子代の高騰分を補助するというので800万ほど予算がついております。これで十分かということは、僕としては町が酪農家に対して支援をするというメッセージは、すごく当初予算でももう項目として上がってますし、皆さんのやる気がなくなるのを少しでも緩和できたのかなということで、この飼料の種子代の応援の事業は誠によかったなというふうに思います。

それで、なぜ足りないかということですが、今日、酪農家さん以外の方もたくさん見とられますのでお話ししますが、先ほど言ったように飼料代が倍近くになって、対策としては、自給の飼料を増やすってということが一番現実的な対応なのかなというふうには思います。それで、種子の補助を出してもらってというのはすごくタイムリーでよかったなと改めて思います。

それで、NHKで中国ローカルの番組で、酪農危機のこの番組がありました。その中で、飼料が上がったことによって、生乳の1キロ当たりで今30円の赤字が出てるということで、本当は1年に1遍しか乳業メーカーさんと単価交渉ができないんですけども、去年の11月、飼料が上がった対策の一環として、10円ほど上げるという交渉が結ばれました。それで、来月、4月には1年に1遍の交渉で、また単価交渉が行われます。いろんなところから聞いてみると、10円か十二、三円の辺でしょうか、が見込まれているようです。しかしながら、最初に言いました、1キロ当たり30円の赤字が出るということからすれば、まだまだ減価を償却する値段にはもちろんなってませんので、再生産をするにはちょっとまだまだ厳しいのかなというふうに思います。去年、県の事業も行われました。恐らく4月の単価交渉の結果を受けて、どれぐらいの規模にするのかは最終的に決まるのかなというふうに思いますが、今のところ、皆さん、中には公庫から、この飼料高になってから借入金を調達して、何とか廃業せずに赤字を抱えながら頑張っておられます。そこの番組の中で、県内に九十何戸か酪農家さんおられますけども、その7割ぐらいしか回答はなかったんですけども、その中の大体もう9割ぐらいの

方が経営が苦しいと、いつやめても仕方ないなというふうな意見が出たそうです。残りの1割の方は、輸入飼料に頼らない経営をされている方なのかなというふうに思います。放牧したり牧草地を広げたり、いろんなことをされて当面はやるということらしいです。値段的にはそういうことで、来月の価格交渉次第では、すぐにでも対策は打たれるのかなというふうに思います。

町のほうは、先ほど町長もちらっと言われましたけども、単町の事業はできないとは思いますが、乳業メーカーと連携して県の事業にすぐ乗って、敏速に対応していただきたいと思います。今、酪農の業界の皆さんからは具体的な何か要望が出てますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今後、先ほどお答えしたとおりやりますけれども、国、県の動きを見ながら、それに併せて町としても追加で支援をしていくように考えておりますし、それによって、この不安定なコストの変動の状況の中で、酪農家の皆さんが引き続き事業をこの大山町内で行っていただけるような取組をしていきたいなというふうに思っております。

要望に関しては、これは毎年例年の要望もあるんですけども、その中に追加で種子代の助成を、この物価高と併せて、飼料高と併せて要望がなされているというところがございます。

○議員（8番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） そうしますと、町の姿勢としては、廃業者を出さないように精いっぱい支援していただきたいと思います。酪農家の皆さんは、本当に集落に張りついてといますか、そこの地区の中心的な役目も果たしておられますので、最悪の事態にならないように頑張っていただきたいなというふうに思います。

それから、2つ目の項目で、前回、12月に続いて、耕畜連携の関係を聞いております。酪農家の皆さんが一番耕畜連携をする上で、地域に密着して個別の、もちろんブロッコリーやネギなどの特産の方が今中心なんですけども、それ以外の水稻やほかの作物にも堆肥の循環を広げるためには、酪農家の皆さんが散布機械も持っておられますので、ぜひとも連携して、広げることの先頭に立つと思われまますので、酪農家の皆さん、ぜひとも耕畜連携、もちろん耕畜連携の堆肥の循環がどれだけ酪農家の皆さんの収入の足しになるかという、そんな莫大なお金にはなりませんけども、やはり地域の環境保全のことを考えると、循環をすることが持続可能な農業に寄与するんじゃないかなというふうに思いますので、お願いしたいというふうに思います。

町長答えておられましたけども、耕畜連携の関係で、今、堆肥を利用されてる方の補助は年度末に向けて加算措置をされたり、利用促進のことはされたんですけども、さらにそれを広い分野に拡大していく意味で、12月のときにも酪農家の皆さんとも協議し

てくださいということはお願ひしたですけども、今こういう、酪農を巡る情勢が厳しい中なので、自己負担が発生する、そういう耕畜連携のことに首突っ込むのは、なかなか手が挙がりにくい状況だというふうには思いますけども、この冬の間に関何か動きとか意見を交換するような会、あるいは要望みたいなもんが酪農家さんと町のほうで何かありましたか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

意見交換の場というところですが、これは要望に来られた際に書面を頂くだけではなくて、その場で意見交換や実情なんかを伺ったり、書面以外の部分での要望だったりとか、様々な聞き取りをしたり意見交換をしたりさせていただいているところです。その中でも、例えばこの肥料価格とか物価高騰、エネルギー高の中であって、コストが上がっているというところもあります。あと、苦しい部分としては、酪農家、乳牛を育てていく上で、今和牛を育てる、それを売りに出すということで副産物のような収入が発生しているわけですが、その和牛の価格もちょっと下がり気味で、その副収入的なところになっている部分もあまり当てにできないというような実情も伺っているところです。こういった、特に一次産業の関係は市場価格等に影響を受けやすいところで、価格転嫁もしにくいというところがありますので、引き続き実情をよく聞き取り等をしながら必要な支援策を講じることで、町内で事業に携わっている方が今後も継続的に経営ができるように支援をしていきたいというふうに考えております。

○議員（8番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） 最後の質問になりますけども、酪農家の皆さん九十何戸、県下にあります。大山町も十何件あります。乳業メーカーというのが、名前は出しませんけども、県内に1か所で酪農家の皆さんが全てそこと契約して集約して、ある意味鳥取県のオンリーワンのブランドとして、名前が出しにくいですけども、白バラ何とかというところです。ぜひとも大山町も、生産者の努力ばかりではなくて、消費者の視点で、私たちがぜひとも郷土の特産物を残すために、何とかみんなで牛乳を、地元の牛乳を飲みましょうという、何か大山町でキャンペーンみたいなことはできませんか。単独ではもちろんできないと思うので、その乳業メーカーさんと連携してだと思ひますけども、米子市がおこめ券を配ったりなんかしてますけども、牛乳券というのはどうかと思ひますけども、牛乳消費の拡大に寄与できる何かができないかなというふうに思ひます。何か町長、いい案ありませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。牛乳の消費を増やす、乳製品の消費を増やす、

そういう取組ですが、全国的には、特に北海道のほうで今そういう、生産者支援も含めてですが、牛乳を1家庭当たり幾つというような形で配る、差し上げるような事業をしているようなところがあるというふうに聞いておりますし、何らか支援策ができないかなというふうには思っております。一番いいのは、今大原議員も言われましたが、鳥取県内、1つの組合しかなくて、大山乳業農業協同組合ですが、そこが県下1つでやっておりますので、特に製品としても強みを持っているわけです。ブランド力がかなりあって、乳製品以外にも白バラグッズみたいなものが人気で、それを何かグッズ化して売ったりとか、すごく商売センスがある農協さんだなどというふうに思っていますので、そういういろんな乳製品で売っていただくのは当然のことながら、経営が上向きになるようないろんな施策を考えられるような団体だと思いますので、ぜひとも今の売上げをしっかりと上げていただく、また、あまり弱気にならずにしっかりと、安く買ってもらってるわけじゃなくて、製品が良くて買ってもらってるような類いのものだと思いますので、乳製品の価格とか牛乳の価格も販売価格しっかりとコントロールしてもらって、それを生産者のほうに還元していただくような、そういうことも逆に行政のほうからも要望していかないといけないのかなというふうには思っているところです。

いずれにしても、本当に、繰り返しになりますが、市場の状況に左右をされるようなところでありますから、そういったところを地域の皆さんと一緒に支えていけるような、何かいい取組を引き続き考えていきたいなというふうに思っております。

○議員（8番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） これで質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） これで大原広巳議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） ここで休憩とします。再開は1時30分とします。

午後1時28分休憩

午後1時30分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

一般質問、最後になります。

15番、野口俊明議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 何か今日最後だということで、2日間場所の、千秋楽の結びの一番だそうですし、リラックスして、私が鳳啓助で、町長は京唄子ですから、ひとつあれで、あんまり気負わんようにしてください。幸いなことにもう一つ、いわゆる原稿は私、手書きです。議会広報に出すのはタイプ打ちでないといけないということで、私のは載りませんので、リラックスしてしゃべっていただけりゃと思います。ひとつよろしく、京唄子さん、お願いします。

それでは、一般質問をさせていただきます。私はずっと、今回の表題、弱者対策と町民に優しいまちづくりをとということで、今までも一般質問等取り組んできておりますが、今回も同じように弱者対策と町民に優しいまちづくりをとということで取り上げました。

令和の5年度の町長の施政方針演説の結びに、子供から高齢者まで誰もが暮らしやすいまちづくりに取り組んでいくと説明されておられます。ぜひこのことが実現することを私は願って、ほんの少しだけということ、一部だけ質問するということにした次第であります。

まず、3点を質問しておりますが、1点目は、国道、県道、河川管理道、町道等の路面管理と除草について、今年度の反省点と、来年度に向けての、新年度の対応策ということをお伺いいたします。2点目は、除雪についての反省点と、新年度の対応策はどう今年度と変わるのかということをお伺いいたします。そして、3点目は、公共交通について、このままでいいのか。県下の市町村で、新聞等にもたくさん出ました。県下の市や町では、いろいろな方策や対策に取り組んでおります。我が町の高齢者や利用者の話を聞きますと、もう一つ評判が、このデマンドバスについてよくないということでありまして、この改善策について何か考えがあるのかということをお伺いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 野口議員の一般質問にお答えをいたします。弱者対策と町民に優しいまちづくりについてということで3点御質問をいただいておりますが、今日は野口議員ではなくて、鳳啓助さんだということで、私は京唄子だという御指名をいただきました。めおと漫才の掛け合いのようによく一般質問と答弁ができればいいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず1点目の、国土、県道、河川管理道、町道等の路面管理と除草についての反省点と新年度の対応策についてお尋ねをいただいておりますが、令和4年度は、これは御承知のとおりですが、国道、河川管理道の除草が非常に遅かったために、町民の皆さんにも御不便、御迷惑をおかけしたところではありますが、国土交通省と鳥取県に対しまして早期の対応について要請を行ったところでございます。国土交通省に対しましては、来年度早期の除草や舗装修繕などを実施していただくように、先日要望を個別にも行ったところでありますし、鳥取県に対しては、随時情報共有しながら対応を要請していきたいというふうに考えております。

町道におきましては、路面陥没などは迅速な修繕を行いました。除草や側溝清掃の維持作業については、地区によりまして実施時期が遅くなったり、刈った草で側溝が埋まったりするなど、全体的に改善すべきところもございました。新年度に向けましては、集草撤去や道路維持の作業員を1年間通じて雇用する予定としておりまして、維持作業を充実していくことと併せて、路面は舗装修繕計画に基づいて、年次的、計画的な修繕を行う予定としております。

2点目の、除雪についての反省点と新年度の対応策のお尋ねですが、1月下旬の降雪の際には雪質が重くて通常除雪以上に時間を要しましたために、対応が遅れた地域が一部ございました。本年度から新たな車両の導入など、除雪体制は拡充しております、新年度も同じ体制を予定しているところでございます。天候状況によりましては対応に時間を要することもございますが、早めの除雪ができるように努めていきたいと考えております。

3点目の、公共交通についてのお尋ねですけれども、大山町の公共交通機関は、一般の方向けには大山町が運行委託して実施しておりますスマイル大山号、あるいはバス、JR、タクシーなどがございます。その中で、スマイル大山号は町内に394か所の乗り場、86か所の目的地を設定しまして、各集落から医療機関やスーパーなど、生活に必要な施設へは行くことができるよう運行しているところでございます。タクシーのようなドア・ツー・ドアの便利さというものはございませんが、定時定路線の運行と比較しますと、町内どの集落からでも乗降が可能なシステムになっております。改善策としましては、使い方が分かりにくいという御意見をいただいております、今後広報などで利用方法の周知を図っていきたいというふうに考えておりますし、あわせて来年度、抜本的な見直しの検討に着手をしたいとも考えております。

教育長の答弁も同じです。以上で答弁とさせていただきます。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 多分町長の答弁と教育長の答弁が同じというのは、ちょっと私の立場から見るとおかしいと思います。私、実は教育長さんには、ちょっと教育長の下に、中には何点か質問することがあるということで、別にこの答弁に答えてほしいと思っていなかったんですけど、議運の皆さんが気を遣って、もっとおらかな気持ちになれってということでしていただいておりますんで、そういうことですが、教育長さん、よろしく願いいたします。

そうしますと、管理の、まず最初に、国道、県道、河川管理とか町道の路面管理や除草についてということの中で、本当に今町長がここに反省点として上げておられます、今年度はこれを改善していくということで、もう既に努力していただいたとということでは分かりましたが、昨年度、確かに、私、いわゆる町民に優しく弱者対策ということから考えて、盆よりか前に建設課のほうにお願いして、国のほうにもあれですけど、いわゆる盆の墓参りとかお寺参り、そして秋の彼岸もお寺参りとか墓参りされます。電動カーに乗って、それが運行できないような状態、行かれないような状態でした。私、盆に間に合うようにと思ってお願いしたんですけど、建設課はすぐ国のほうにもお願いしていただきましたですね、たしか。後からちょっとその辺どうだったかをお聞きしますけど。そういうことで、私も盆に必ずそういうことが起きるということはもう想定してましたからお願いしたんですけど、国のほうは結果的には10月過ぎて、11月にもかか

ってやられた。だけん、秋の彼岸も駄目、盆も駄目と、墓参りも本当に草ぼうぼうの中であれを、歩道で行くわけにならないというような状況でしたし、今もって、一部分はもう草が枯れてますけど、構ってない国道の歩道というか、そういうところもあるわけで、やっぱりこれは私は、課長には悪いけど、町で話しされるよりか、やっぱり親分が親分に話をされねば、なかなか言うこと聞いてくれないじゃないかという気がしております。何年か前にもそういうことも私、ちょっと経験してまして、やっぱりなかなか言うこと聞いてもらうためには、ぜひぜひそういう状況にやられなければならないでないかなと思ってます。ぜひそういう格好をお願いしたいんですけど、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

おっしゃるとおりで、うちでいうと建設課から、担当課から担当者に対して、こういう状況である、地域の住民の皆さんからもこういう御意見もあるということでお伝えをして、すぐにやっていただける場合もあります。過去そういう状況のときもありました。今年度に関しては非常に取りかかりが遅かったもので、最終的には私から倉吉河川国道事務所の所長に直接伝えて、すぐにやっていただいたというような状況がございます。

○議員（15番 野口 俊明君） はい。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） やっぱりそういう格好にならなくちゃいけないという、私は思っております。建設課長、今の、この前どういふことで国のほう等をお願いしていただいたんですか。やっぱり今、言われるように、親分が話されんと難しいような気がするんですけど、ひとつよく、ほかの事業課もあるわけですが、やっぱり事業課と、町長や教育長も一緒ですけど、しっかりと意思疎通されて取り組んでほしいと思います。どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

おっしゃるとおりで、一番いいのは、担当課から担当者に連絡を入れて同じように動いていただけるような状況であるのがいいんですけども、先方も先方でいろいろと内部の意思決定等もあるでしょうから、そこで意思疎通がどうなってるかというところはあんまりここではお話ししませんけれども、現状で、所長に対してこういう状況であるのでということをおし入れたのと同時に、担当課から担当者に対して再三お願いをしているというような状況もお伝えしたところで、今後は担当課から伝えてもしっかり対応していただけるような、そういう状況ができていないかというふうに考えておりますが、再度同じような状況になれば、また申入れは引き続きしていきたいというふうに考えております。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 教育長にこれはお伺いします。私、いわゆるこの9号線を使うに当たって、学校の生徒が、いわゆる草等があります、刈ってないですから。特に歩道を歩いてる女の子なんか雨の日なんか草が当たると、そこをもう擦って歩いてますよ。ぜひ教育委員会として、私何年か前に一般質問のときに、子供たちのことで歩道の、いわゆる教育委員会としての見回りとか、お願いしますという話で、やっときますよという話伺ってましたけど、ぜひ気をつけていただいて、やっぱり町との連携を密にして早く、そういうものが子供たちの状況にも本当に影響してると思います。あるときに、ヘルメットかぶってる子供が自転車に乗って、こうするんですよ。もう倒れかけてました。頭に、いわゆる枝が出て当たって、そしたらまた次は、2回目はこうして行きましたけど、本当にそういう状態ですよ。歩道から転んだら車道に行きますから危なくてしょうがない状態で。しっかりと教育委員会としても、そういう県道も国道も町道も、町道は歩道があるところがほとんどないわけですからあれですけど、やっぱり気をつけて、そういうものも、何ていうか、調査していただいて、下ばかりじゃなしに上もですし、本当に雨降りなんかすごいあれで垂れてますから、本当にかわいそうだなと思っていつも見て通るんですけど、ぜひそういうときの調査をしていただきたいと思いますが、いかがですか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 御質問ありがとうございます。私、今朝、朝からずっとここに座っておりましたが、初めて発言させていただきます。御質問の機会をいただきありがとうございます。

野口議員が御指摘の道路に関するいろいろな問題点、除草、除雪、路面管理等上げられました。やはり一番気になるのが、草とか木が通学路にかかっているという部分が一番気になっております。学校独自の通学路点検というのは毎年行われておりますし、また、PTA活動でも通学路を点検して、学校経由で教育委員会に要望が上がってきます。またさらには、最近では、児童生徒から町の課題ということで、課題が上がってくるという場合があります。その都度、教育委員会としては関係課のほうに情報提供しておりますし、また、関係課からは県のほうにも伝えていただいているというふうに把握しております。

前田次長も野口議員の質問に答えるべくやっておりますので、発言をさせてやってください。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（米本 隆記君） 前田教育次長。

○教育次長（前田 繁之君） それでは、発言します。私も国道の除草に関しては物すご

く問題意識がありまして、私が東のほうから、通勤途上は中山や名和の子が歩道を歩いてますけど、おっしゃられたとおりの状況はすごく思っていました。教育委員会としても、問題があるというふうに感じておりますので、教育委員会から直接河川事務所に申入れをしたこともあります。来年度も同じような対応を取っていききたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

○議員（15番 野口 俊明君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） あの問題ばっかしでないですから、一言、教育長にも町長にもお願いしておきたいと思います。皆さんは米子、鳥取にやたらに出張されるわけです。行きがけに名和インターから乗って、帰りも名和インターから下りると、そういうことをせずに、行きがけはずっといろんな道を通って赤碕中山インターから乗り、それから、下りるのもそこで下りてずっとまた羽田井のほう回ったりと、あちこち回って役場に戻ってくると。教育長もそうです。米子行くときでも、大山淀江インターから乗ると、それまではずっとあちこちの道も歩いて、帰りもそういう姿勢をしてもらえばもっと早く片づくでないか、そしてもっと優しいまちづくりができるでないかと思うわけですが、いかがですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

野口議員御指摘のとおりで、移動するときもいろんな場所を走ってみるというのはすごく大事だと思ってます。そういうふうにおっしゃっていただく以前から、私も例えば町内にしても町外にしても、行き帰りするときにあまり同じ道を走って帰るのが好きではないというか、いろんな道走って、状況を見ながら帰りたいなというふうに思っていて、大体行きと帰り違う道を走っているいろんな状況を見ながら移動をしているところがあります。ちょっと時間の関係上、どうしてもぎりぎり間に合わんときは山陰道で行って山陰道で帰るときもあると思いますが、なるべくいろんなところを走るように、町内でも心がけているところがございます。今後もそのようにして状況を確認しながら、修繕が必要な場所、維持管理が足りていない場所、しっかり自分の目で現場を確認したいというふうに思っております。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 御提案ありがとうございます。私も極力いろんな道を通ろうと思っております。特に通学路に指定されてる道については、実際、児童生徒の目線に立って見るように心がけていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 一ついいあれを、返答いただきましたんで、頑張っ、子供や町民の皆さんのためにお願いいたします。

あんまりこぼっかり言うのをあれしてもあれですから、次、除雪について。除雪についての答弁が、今年は時間を要した、いろいろな新体制も考えていくということですが、今年度、本当に私、夜になって、何回もうちの部落の人やよその人が助けてくれてって来られました。何が悪いかっていうと、除雪の、例えば国道から県道、町道に入るところ、それから、町道の2車線のところから部落道とか、あれに入るところ、全然もう除雪がうまくいってない、今年は特に。それと、ちょっとでも勾配があるところなんかは、四駆の人でも上りよってタイヤ取られて落ちてしまうということがあってます。何か今年の除雪は、雪が積もつとると表面だけするするするっとうきで掃いたような格好で、本当に除雪になってないような気がしたんですけど、どういう状態で今年のような除雪、去年までよりか非常に悪いと。ただ、ほかの町村も聞いてみたら悪いところもあるということをお伺いしました。

これについて、除雪する業者とか、それからじかに町が雇っておる人なんかもあるわけですが、そういう人に除雪に対する教育というものはどういうふうにしておられるのか、そこら辺をお伺いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細に関しては担当からお答えをさせていただきますが、毎シーズン、除雪のシーズン前になりますと、集まっていろいろ話合いをしたりとか説明をしたりとかいうようなところもさせていただいておりますし、あと、除雪体制に関しては、機械の増台だったりとか、あとは、過去に、除雪開始時間だとか積雪の何センチ以上とかいろいろあったんですが、そういうのもすごく見直して、除雪開始の時間も大分早くしたり、前日の夜からしてみたりとか、あと、降雪があった場合じゃなくて、降雪がもう見込まれる際には除雪に出たりとかいうようなことで、いろいろ仕組みとしては改善をしてくるところであります。課題としては少し前に、この先ちょっと除雪オペレーターの数が足りないぞというような時期がございまして、例えば町内事業者の従業員の方で、除雪するための大型特殊だったり、そういった免許を取るための免許取得費用の助成なんかもさせていただいたところあります。それで、オペレーターの数が若干増えてきたというところもあります。免許取ったら1年目からベテランの除雪のオペレーターのようにうまく除雪ができるかといえば、やっぱりそうでないところもあって、経験とか技術とか、そういうところがまだまだ追いつかない部分も一部路線ではあるというふう聞いております。そこは多少ちょっと温かい目で見ていただかないといけない部分もあるのかなというふうに思いますが、そうはいつでも、通行の支障になるような状況ではいけませんから、引き続き改善できるように工夫をしていき

いなというふうに思っております。

詳細は担当課長からお答えをさせていただきます。

○建設課長（小倉 祥司君） 議長、建設課長です。

○議長（米本 隆記君） 小倉建設課長。

○建設課長（小倉 祥司君） 除雪についてでございますが、ほとんど町長の答弁であったと思います。ただ、今シーズン、雪が若干路面に残るような状態であったということは、やはり水分を含んだ雪というものはある程度固まってしまう場合がございますので、そういった状況で雪が残るといえることが考えられます。

それと、あと、除雪オペレーターの教育というものについてでございますが、都度、職員が除雪したルートを確認をしながら、必要に応じて再度除雪をするように指示をしたりとか、細かいテクニックのことに関しては、さすがにそういうところまでは指導はできませんが、その都度都度、状況を確認して業者には指示をしているというところでございます。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） この除雪の件でもう1点ちょっと、今度は教育長さんのほうに。今年は本当に、特に除雪状況が悪かった。子供たち、低学年になればなるほど長靴の長さが短いんですよ。もう本当にかわいそうな感じがするような状況もありました。ぜひそういうときには教育委員会が執行部のほうにハッパかけて、早く子供たちのためにもやってもらうような努力、ちょっと教育長さんも次長さんも早起きしてでも歩いてみるということもされて、そういう子供たちの安全、いろいろなことを気をつけてもらいたいと思うんですが、いかがですか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 積雪時の子供たちの安全確保ということで御質問いただきました。教育委員会としましても、積雪時以外でも、例えば風が強いか雨が降るとか台風のとときとか、そういう子供たちの通学に支障があるようなときには職員が安全点検で通学路を回っておりますし、児童生徒の安全確保には教育委員会としても積極的に動いているという状況でございます。以上です。

○議員（15番 野口 俊明君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 教育委員会として、各学校にはどのような、積雪時に、前もって大体天気予報見れば分かるわけですから、そういう指示はどういうやり方をしておられるんですか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

積雪時とか台風のときの情報提供ですが、これは学校の始業時間を遅らすとか学校を休業にするとか、そういった判断もしないといけない状況もありますので、学校とは密に連携を取りながら、気象状況の共通理解を図りながら進めているところでございます。以上です。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） もう1点だけ、なら、お伺いします。今の除雪について、本年度から新たな車両の導入など、除雪体制を拡充しとるということですが、私はもっと拡充されてもいいんでないかなという気がします。これについて、例えば補助金とか、それから、例えば除雪車も今、大から小までいろいろあって、何だ、こう押すだけでなしに、雪をロータリーではねるようなものもあるわけですが、ああいうものを、大小をやられたら、もう少し充実されたらどうですか。そこら辺で補助金とか、そういう購入についてのことお伺いたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。車両の導入に関しては、その除雪するエリアによりまして、辺地の地域であれば、辺地対策事業債で交付税措置のかなり有利な起債等も活用して導入することはできますし、車両の導入、今後、もうちょっと路線細かく分けてやっていくような必要があれば、それは検討はできるかなと思いますが、それにしましても、やっぱりオペレーターの数がそれでさらに必要になってきますので、そこが十分確保できるのかというところだと思います。特に、オペレーターの方もまだまだ入れ替わり、代替わりみたいなものができてないような部分もあって、これから数年のうちにもうちょっとオペレーター辞めるといような方も出てくるでしょうから、そのさらに入れ替わりで入ってきていただけるような若手のオペレーターさんがいるのかどうか、そういうところもかなり不安定な部分でありますから、車両を導入して、オペレーターがいないといような状況がなければ、もう少し体制の見直しというのは引き続き行っていきたいなというふうには考えております。

○議員（15番 野口 俊明君） 補助金等についてはどうなんですか。

○議長（米本 隆記君） 答弁漏れですか。補助金に。

○議員（15番 野口 俊明君） 補助金あるの、ないの、購入について、どう。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 先ほどの起債の話と、併せて社会資本整備総合交付金で対応している状況でございます。

○議員（15番 野口 俊明君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 時間ももうあれですから、公共交通についてのことをお伺いします。

来年度は抜本的な見直し検討に着手の構えという、考えということをおっしゃりますが、公共交通ですが、実際にデマンドバス、バスでありますから、タクシーでないから、車はああいう格好でもバス停が要ると。そういうことで、当初、この考え方として、デマンドバスを購入するに当たって、民業、いわゆる民間の事業者の事業を圧迫しないように考えて料金体制を組まれて、でもな、高いなと思いつつ、我々でも本当に地元業者が倒産してなくなっちゃうと大変なことだと思う、そういう気持ちもあって、渋谷でも議会も全員が認めたわけでありまして。しかし、これは今、ほかの米子市なんかにしても、ほかのほうにしても100円で乗れるような、そういうあれがもう、いわゆるタクシーでなしにバスですから、バス停はもちろん必要だろうけど、料金がバスならもっと安くてもいいでないかなという気がし出しました。というのも、もうこの10年からたつ中で、タクシーに乗る人はもう初めからタクシー、バスを使う人はバス、逆にデマンドバスが何か乗りにくいという人が結構年寄りの中でもあるわけで、ですから、もうタクシーのことは気にしなくてももういいんでないかなと、もうタクシーに乗る人はもうタクシーに決めておられますから。ですから、料金体系を私はまず見直すべきでないかなと思います。基本的には、例えばここから大阪行っても京都行っても、自動車よりかバスのほうが安くて行けるわけですよ。今、私ちょっと見てみたら、中山口から下市まで150円、御来屋まで200円、名和まで200円、大山口まで240円ですよ。米子、倉吉に至っては510円、鳥取まで1,170円。これ、考えてみて、中山口から大山口に1,500円かかっちゃう。鳥取よかもっと先まで行けるんですよ。デマンドタクシーなら私もいいかもしれんけど、デマンドバスですから、バス料金という考えなら、私はこれはぜひもう見直しをしても、町民も決して怒りはしないと思いますよ。事業者の方も怒られないと思いますよ。ぜひまず料金の見直しも考えていただきたいと思うんですけど、いかがですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。野口議員と同じ考えを持っておりまして、このエリアをまたいだ移動というのが非常に高い、エリア内の500円も場所によっては高いということもありますし、あと、使い勝手が悪いということも同感です。こういったところを新年度見直しができないかなというふうに考えております。その上ではいろんな壁がありまして、いろいろ難しいところもあると思います。一筋縄ではいかないところもあると思いますが、また野口議員の後押しも受けながら、しっかり前向きに進めていきたいなというふうに思っております。以上でございます。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） これについては本当に頑張っていただけりゃ、議員全員がもうもろ手を挙げて協力すると思いますので、よろしくをお願いします。

今の各そういう町の状況を見ますと、車の種類もいろいろあるし、それから、何ていうか、運行の仕方、いろいろ何だ、若桜は若桜のような運行の方法があるし、岩美は岩美のほうから鳥取のあっちのほう、米子は米子のような、そういういろんな多様な、多種的なものもやっぱり考えていかにゃいけんでないかなという気がするわけですが、どうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。いろんな方法、やり方あると思いますし、組合せもあったりすると思いますので、いろんなアイデアを基にしながら検討を進めていきたいなというふうに思います。

○議員（15番 野口 俊明君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） ぜひそういうものについて、早く取り組んでほしいというのが町民の皆さんの考えだと思っております。

そういう中で、今取りあえずの一番大きな課題というのは、町長にとって私が今あれした料金もあるんでしょうけど、大体どれから課題を片づけていきたいという考えが持っておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。課題としてはやっぱり料金の問題が大きいとっていて、そこだけをもし解消するんであれば、例えば利用される方に対してフリーパスのような形で支援するとかでいけば、その部分だけは解消できるんでしょうけれども、根本的な使いにくさとか、そういったところの改善に至らないので、安易にそこだけやってしまうというのもどうなのかなというふうには思っています。そうすると、利用者は恐らく増えるんでしょうから、何か利便性が悪いっていう部分だけがどんどんどんどん隠れていってしまわんかなというようなところもありますから、そこも併せて改善検討していきたいなというふうに思っております。

○議員（15番 野口 俊明君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） そうしますと、ちょっと全般的にもう1点だけですが、今基本的には、ここにおられるのは建設課長と教育委員会の皆さんですけど、農林関係も、いわゆる何ていうか、あすこの農免、あれは汗入農免かいな、一番奥の羽田井の、あれのところで、何か町からは草刈り代が出て、草刈っているんだそうです、地元の人が、上中山の辺か何かの人かな。でも、入り口には、いこいの森か何か、通行止め、入

っちゃいけませんっていうのが出ている、町長。これは本当にせっかく草刈りまでしてあるのに、何で町民にそういうところを入っちゃいけないなんていって、あれは県がたしかしてくれて、いこいの森か何かになってるはずなんですけど、そういうものもちょっとせっかくなら、優しい心を持って住民に開放できないんですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。担当課長おりませんが、状況としましては、何年か前に災害のときに崩れたりしたところがあって、通行を制限しているようなところがあったようですが、また現状を確認しながら、町民の皆さんに利用いただけるところはしっかり利用いただけるような状況にしていきたいというふうに考えております。

○議員（15番 野口 俊明君） はい、議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） それ聞いて安心しました。ぜひ、いこいの森だか何か、私、名前忘れちゃったけど、町民が癒やされる場所ですから、本当に親子連れで散策もできたりいろんなことが、水辺もあるし、やってほしいなと思います。

それから、初めにあれした、いわゆる各種仕事、例えば盆には通れるとか、梅雨があるまでに、何ていうか、草が刈ってもらえるとか、そういうことを町としても、時期を見た行政、教育委員会もですけど、そういうものをぜひしてほしいと思います。いかがですか、これが最後の質問になります。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。まとめは教育委員会のほうでうまいことやってくれると思いますので、私のほうからは、タイミングを見た維持管理であったりの必要性ですけれども、おっしゃるとおりで、人があんまり歩かんようになる冬前ぐらいに、道路きれいにして草がなくなって通れるようにしてもあんまり効果としてはないわけで、それであれば利用者が多い時期に、同じ予算を使うのであれば、する必要があるのかなというふうに思ってます。

あとは、やっぱり草は御承知のとおり、よく伸びますから、1回刈ってもまたすぐ伸びるようなことじゃいけませんので、そういう意味での刈るタイミングも重要ではないかなというふうに思っております。担当課もそのように考えているところでありますし、また、それは国、県のほうにもしっかり要望として伝えていきたいというふうに思っております。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○町長（竹口 大紀君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 野口議員、今日御指摘の、生徒が自転車で通学路を通るときに、木をよけたりとかしながら、苦労しながら走っていたということを御覧いただいて、

御指摘いただきました。やはり支障木ですとか、それから草とかが今年度を見とって、やはり刈るタイミングが非常に遅かったなというふうに思います。やっと刈ってもらったかみたいな感じで私も道路の状況を見ながら考えとったんですが、やはりそういった伸び切るまでに、早い時期に草を刈ってもらう、木を切ってもらうということをまた要望していきたいというふうに考えております。以上です。

○議員（15番 野口 俊明君） 終わります。鳳啓助です。

○議長（米本 隆記君） これで野口俊明議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） 以上で本日の日程は終了しました。

次回は3月20日月曜日に本会議を再開します。定刻午前10時までに本議場に集合してください。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時18分散会
